

工 事 仕 様 書 （機械設備）

I. 工 事 概 要

1. 工 事 名 称 市立輪島病院災害復旧工事（その3）

2. 工 事 場 所 石川県輪島市山岸町地内

3. 完 成 期 日 令和 年 月 日（余裕期間制度試行工事適用の場合は、左記を完成日の期限とする。）
指定部分 ・ 無 ・ 有（指定期日：令和 年 月 日） 対象部分（ ）
概成工期 ・ 無 ・ 有（令和 年 月 日） (1.2.1(6))

4. 建 物 概 要

建 物 名 称	構 造	階 数	延面積（㎡）	消防令別表第一	備 考
病院	RC	4 階建(地階 階.塔屋 2 階)	12,656.37	(5) 項	

5. 別契約の関連工事

・建築工事 ・電気設備工事 ・給排水衛生設備工事 ・空調調和設備工事 ・構内交換設備工事
・昇降機設備工事 ・自家発電設備工事 ・厨房機器設備工事 ・屋外付帯工事 ・植栽工事
・ ・ ・ ・ ・

6. 工 事 内 容

市立輪島病院（災害復旧工事）に伴う、機械設備工事一式を行う。

災害復旧工事概要

空調設備 ファンコイルユニットの復旧工事を行う。

ファンコイルユニットの更新に伴う、配管、撤去工事を行う。

衛生設備 屋上の高架水槽の復旧工事を行う。

屋上の高架水槽の復旧工事に伴う、配管、仮設、撤去工事を行う。

その他 建築工事の壁・天井復旧工事に伴う、設備機器、器具の取外再取付を行う。

3階4階WCの和風大便器を洋風大便器へ更新する工事を行う。

II. 工 事 仕 様

1. 一 般 仕 様

1) 図面及び特記仕様に記載されていない事項は、すべて国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の「公共建築工事標準仕様書（機械設備工事編）令和7年版」（以下、「標準仕様書」という。）及び「公共建築設備工事標準図（機械設備工事編）令和7年版」（以下、「標準図」という。）及び「公共建築改修工事標準仕様書（機械設備工事編）令和7年版」（以下「改修標準仕様書」という。）による。
2) 電気設備工事及び建築工事を本工事に含む場合は、電気設備工事及び建築工事はそれぞれの標準仕様書・改修標準仕様書・標準図（建築工事にあっては建築工事標準詳細図）を適用する。

2. 特 記 仕 様

章は●印の付いたものを、特記事項で選択する項目は・印に○印の付いたものを適用する。

○印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。

○印と※印の付いた場合は、共に適用する。

章	項 目	特 記 事 項
一 般 事 項	① 工事実績情報	請負金額5,000千円以上の工事は工事実績情報登録を行う。(1.1.4)
	● ② 施工体制台帳の作成等	下請負に付する場合は、施工体制台帳を作成し、現場に備え付ける。また、施工体系図を工事関係者及び公衆が見やすい場所に掲げる。(1.1.5(3))
	③ 他工事との取り合い	スリーブ、箱入れなど他工事との取り合いは、別表－1によるものとし、施工に支障をきたさない時期までに、必要な位置、大きさ等を明示し、監督員と打ち合せる。(1.1.7)
	④ 工事の記録等	工事総合進捗表、工事日誌、打合せ記録、工事箇所図及び現況写真等を記載した工事報告書を毎月月末ごとに提出する。(1.2.4)
	⑤ 施工条件	・新築工事 ○改修工事 (○執務並行改修 ・全館無人改修) ・工所用車両の駐車場所等は図示による。(改1.3.3)
	6 発生材の処理等	・引渡しを要するもの（ ） (1.3.9(2)) ・特別管理産業廃棄物（ ・廃石綿（エルボ保温、パッキン） ・ ） ・現場で再利用を図るもの（ ・ ） ・再資源化を図るもの（ ・コンクリート ・アスファルト ・木材 ・ ）
	⑦ 再使用機材	○取外し後再使用するものは図示による。(改1.4.3)

章	項 目	特 記 事 項																																
一 般 事 項	8 事前調査	石綿含有分析調査を ・ 行う（図示 箇所） ・ 行わない (改1.5.1)																																
	9 養生	1) 既存部分の養生範囲は、図示による。(改3.1.1) 2) 養生の方法及び固定された備品・ロッカー等の移動は、図示による。(改3.2.1)																																
	10 撤去等	1) 回収を要する機器及び配管の内容物 ・ 冷媒 ・ 吸収液 ・ 廃油 (改4.1.1(3)) 2) 石綿の撤去は、図示による。(改4.1.2(4)) 3) 機器の撤去跡の壁面等の補修は、図示による。(改4.2.5)																																
	⑪ 環境への配慮	1) 「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律」（グリーン購入法）に規定される特定調達品「公共工事」等は下記による。また、判断基準を満たすことを確認する。(1.4.1(1)) ・ 吸収冷温水機 ・ 水蓄熱式空調機器 ・ 送風機 ⑤ ポンプ ・ ガスエンジンヒートポンプ式空調調和機 ・ 下塗用塗料（重防食） ⑥ 大便器 ・ 自動洗浄装置及びその組込み小便器 ・ 自動水栓 2) 本工事の建物屋内で使用する揮発性有機化合物を放散する建築材料等は、設計図書に規定する所要の品質及び性能を有するものとし、次のとおりとする。(1.4.1(2)) ① JIS又はJASのF☆☆☆☆規格品 ② 建築基準法施行令第20条の7第4項による国土交通大臣認定品 ③ 下記表示のあるJAS規格品 a. 非ホルムアルデヒド系接着剤使用 b. 接着剤等不使用 c. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない材料使用 d. ホルムアルデヒドを放散しない塗料等使用 e. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料使用 f. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料等使用																																
	⑫ 機材の品質等	1) 本工事に使用する機材等は、設計図書に定める品質及び性能を有する新品とする。(1.4.2(1)) ただし、仮設に使用する機材は新品に限らない。 2) 機器類の能力、容量等は図示された数値以上とする。 3) 電動機出力、燃料消費量、圧力損失は、原則として図示された数値以下とする。 4) 下表に示す機材等の製造者等は次の①から⑥までの事項を満たすものとし、この証明となる資料又は外部機関が発行する評価の書面を提出して、監督員の承諾を受ける。ただし、製造者等が「建築材料・設備機材等品質性能評価事業 設備機材等評価名簿（最新年版）」（（一社）公共建築協会）等に記載されているものは、証明となる資料等の提出を省略することができる。 ①品質及び性能に関する試験データが整備されていること。 ②生産施設及び品質の管理が適切に行われていること。 ③安定的な供給が可能であること。 ④法令等で定める許可、認可、認定又は免許等を取得していること。 ⑤製造又は施工の実績があり、その信頼性があること。 ⑥販売、保守等の営業体制が整えられていること。																																
		<table><tr><th colspan="4">機 材 名 称</th></tr><tr><td>ボイラー</td><td>空気調和機</td><td>ポンプ類</td><td>タンク</td></tr><tr><td>温水発生機</td><td>空気清浄装置</td><td>ダクト付属品</td><td>消火装置</td></tr><tr><td>冷凍機</td><td>全熱交換器</td><td>自動制御</td><td>厨房機器</td></tr><tr><td>冷却塔</td><td>送風機類</td><td>衛生器具ユニット</td><td>鋳鉄製ふた</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>	機 材 名 称				ボイラー	空気調和機	ポンプ類	タンク	温水発生機	空気清浄装置	ダクト付属品	消火装置	冷凍機	全熱交換器	自動制御	厨房機器	冷却塔	送風機類	衛生器具ユニット	鋳鉄製ふた												
	機 材 名 称																																	
	ボイラー	空気調和機	ポンプ類	タンク																														
	温水発生機	空気清浄装置	ダクト付属品	消火装置																														
	冷凍機	全熱交換器	自動制御	厨房機器																														
	冷却塔	送風機類	衛生器具ユニット	鋳鉄製ふた																														
⑬ 一級技能士の適用	① 配管(建築配管) ・ 建築板金(ダクト製作及び取付け) (1.5.2(1)) ② 熱絶縁施工(保温保冷工事) ・ 厨房設備施工(厨房機器据付け及び整備) ・ 冷凍空調調和機器施工(冷凍機、パッケージ形空気調和機据付け、整備及び冷媒配管)																																	
⑭ 工事の創意工夫等	受注者は、工事施工において、自ら立案実施した創意工夫や工事特性に関する項目、又は地域社会への貢献として評価できる項目に関する事項について、工事完了時までに所定の様式により提出することができる。(1.5.9) 建築物の室内空気中の濃度測定を ・ 行う ・ 行わない (1.5.10) 測定時期、測定対象化学物質、測定方法、測定対象室、測定箇所数等は図示による。																																	
15 化学物質の濃度測定																																		
16 中間検査	中間検査の実施 ・ 無 ・ 有(時期 ・ 天井下地完了時 ・) (1.6.2)																																	
⑰ 完成図	原因及び製本(等倍 1 部、A3縮小 2 部)提出する。(1.7.2)																																	
⑱ 保全に関する資料	保全に関する資料は次のとおり、2 部提出する。(1.7.3) ①建築物等の利用に関する説明書※ ②機器取扱説明書(主要機器一覧表とも) ③機器性能試験成績書(総合試運転調整報告書とも) ④官公署届出書類 ※「建築物等の利用に関する説明書」作成の手引き 手引きのダウンロード http://www.mlit.go.jp/gobuild/kijun_kentikubuturiyou_tebiki.html																																	
19 足場類	内部及び外部足場の種別は、図示による。防護シート等の養生は図示による。(改2.2.1)																																	
⑳ 工事用水等	⑤ 既存施設に量水器等を設けて使用できる(有償) ・ 水道局引込み等 (改2.2.2)																																	
21 仮設間仕切・扉	設置箇所、種別及び塗装仕上げは、図示による。(改2.2.3)																																	
● 共通事項	① 総合試運転調整																																	
事項	下記の項目の測定報告書(測定箇所は監督員の指示による)を提出する。(1.5.6.3) ① 風量調整 ② 水量調整 ・ 室内外空気の温湿度の測定 ・ 室内気流及びじんあいの測定 ・ 騒音の測定 ・ 振動の測定 ・ 飲料水の水質測定(16項目 箇所) ・ 雑用水の水質測定(建築物環境衛生管理基準による。)																																	

章	項 目	特 記 事 項												
●	② 配管等	1) 仕切弁はJIS又はJV（ ・ 5K ○ 10K（水道直結等の図示部分） ）とする。 (2.2.1) 2) 絶縁継手の取付け箇所は、図示による。 (2.2.12) 3) 建物導入部の変位吸収方法は次による。ただし、排水及び通気配管を除く。 (2.4.1(5)) 標準図（ ・ (a)フレキシブルジョイント ・ (b)ボールジョイント ・ (c)スリクッション ）による。(2.5.7(1)) 4) 呼び径60Su以下のステンレス鋼管は、（ ・ プレス ○ 拡張 ・ ）接合とする。 5) ポリエチレン管の接合方法は、（ ○ 電気融着 ・ メカニカル ）とする。 (2.5.10(3)) 6) 溶接部の非破壊検査を ・ 行う ・ 行わない (2.5.15.12(3)) 7) 地中埋設機の設置箇所は、図示による。 (2.7.1(8)) 8) 埋設表示用テープ（倍折）を土被り150mm程度の深さに埋設する。 (2.7.1(9)) 9) 埋設深さは、図示が無い場合、車両道路（ ・ 60cm ・ ）、その他（ ・ 30cm ・ ）以上とする。 (2.7.2)												
	③ 防凍保温	屋外露出部(給水管、消火管、膨張管、冷温水管、弁類を含む)は 防凍保温を行い、保温材の厚さは配管の呼び径25mm以下のものは50mm以上、それ以外は40mm以上とする。 (3.1.6)												
	4 塗装	下記の亜鉛めっきを施した露出ダクト及び露出配管は、塗装を行わない。 (3.2.1.1) ○ 機械室（エレベーター機械室） ○ 電気室（自家発電室） ○ 倉庫 ・												
	5 吊り及び支持金物の防錆	多湿トレンチ内等の吊り金物、支持金物類は溶融亜鉛めっき処理又はステンレス鋼製とする。 (3.2.2.1)												
	6 監督員事務所等	1) 監督員事務所を ※ 設けない ・ 設ける[・ 1号（10㎡程度） ・ 2号（20㎡程度）] (4.1.1(1)(4)) 2) 監督員事務所に設ける備品等 ・ 保護帽 ・ 墜落制止用器具 ・ 長靴 ・ 合羽 ・ 机 ・ 椅子 ・ 懐中電灯 ・ 書棚 ・ 黒板 ・ 寒暖計 ・ ・												
	7 快適トイレ（快適トイレ実施要領に基づく）	3) 設計図を工事監理用に製本（等倍 1 部、A3縮小 2 部）し、監督員事務所等に置く。 ・ 快適トイレを設置する ・ 快適トイレを設置しない（別途工事で設置等） ※ 監督員へ提案・協議し、快適トイレを設置することができる 快適トイレを設置した場合は、設計変更の対象とし、「快適トイレ実施要領」により費用を計上する。												
通	⑧ 工事現場の表示板	工事現場には、下記表示板を設置する。 （記入例） (4.1.1(1)(9)) <table><tr><td colspan="2">上段の地色は白色 文字は青色</td><td rowspan="4">60cm ～75cm</td></tr><tr><td colspan="2">下段の地色は青色 文字は白色</td></tr><tr><td colspan="2">工 事 名 工 期 自 年 月 日～至 年 月 日</td></tr><tr><td colspan="2">発注者 市立輪島病院 設 計（建築・設備委託業者名を記入） 監 理（建築・設備委託業者名を記入） 施 工 建 築（施工業者名を記入） 電 気（施工業者名を記入） 機 械（施工業者名を記入） この工事は、週休2日に取り組んでいます</td></tr><tr><td colspan="2">90cm</td><td></td></tr></table>	上段の地色は白色 文字は青色		60cm ～75cm	下段の地色は青色 文字は白色		工 事 名 工 期 自 年 月 日～至 年 月 日		発注者 市立輪島病院 設 計（建築・設備委託業者名を記入） 監 理（建築・設備委託業者名を記入） 施 工 建 築（施工業者名を記入） 電 気（施工業者名を記入） 機 械（施工業者名を記入） この工事は、週休2日に取り組んでいます		90cm		
	上段の地色は白色 文字は青色		60cm ～75cm											
	下段の地色は青色 文字は白色													
	工 事 名 工 期 自 年 月 日～至 年 月 日													
	発注者 市立輪島病院 設 計（建築・設備委託業者名を記入） 監 理（建築・設備委託業者名を記入） 施 工 建 築（施工業者名を記入） 電 気（施工業者名を記入） 機 械（施工業者名を記入） この工事は、週休2日に取り組んでいます													
	90cm													
9 埋め戻し土	設計及び監理の欄は、実施設計及び工事監理が委託発注された場合。 工事名は、各工事とも共通な名称とし、各文字は角ゴシック体とする。 ※ 根切り土の中の良質土（ただし、管の周囲は山砂） ・ 山砂 (4.2.1(1)(4))													
10 建設発生土の処理	・ 現場内で処理 (4.2.1(1)(4)) ・ 構内指示の場所に堆積 ・ 構内指示の場所に敷き均し ・ 場外搬出適正処理（「再生資源利用促進計画書及び実施書」を監督員に提出のこと。） ※ 指定（想定）搬出先 受入場所： 受入時間帯： 時 分～ 時 分 仮置き等：													
11 はつり	1) 放射線透過検査を ・ 行う ※ 行わない（但し、鉄筋探査は行う。） (改5.1.2) 2) 配管貫通部の穴開けは、ダイヤモンドカッターとし、場所・口径は図示による。 (改5.1.3) 3) 既設基礎の解体、撤去後の床補修は、図示による。 (改5.1.5)													
12 あと施工アンカー	1) 埋込み配管等の探査の範囲及び方法は、図示による。 (改6.2.1) 2) 床スラブ上面の施工後確認試験（引張試験(短期許容引抜荷重)）を (改6.2.3) ・ 行う（ 箇所） ・ 行わない													
項	13 県内産材料	3) 天井スラブ下面、壁面の施工後確認試験（引張試験(長期許容引抜荷重)）を ・ 行う（ 箇所） ・ 行わない 輪島市建設工事標準請負契約約款（以下「請負契約約款」という。）第6条の2第7項により、調達する工事材料は石川県産とするように努めることについて、工事着手前に使用材料確認願いを提出する。												
	⑭ 材料検査	請負契約約款第13条第2項に定める監督員の検査を受けて使用する工事材料は次のとおり。 ・ 熱源機器 ○ 空調機器 ○ ポンプ類 ・ ダクト及び付属品 ○ 衛生器具 ○ タンク類 ・ 消火機器 ・ 合併処理槽 ・ 厨房機器 ・												
	⑮ 工事写真等の記録	1) 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「営繕工事写真撮影要領（令和5年改定）」による。												

最終改訂 R8. 4. 1

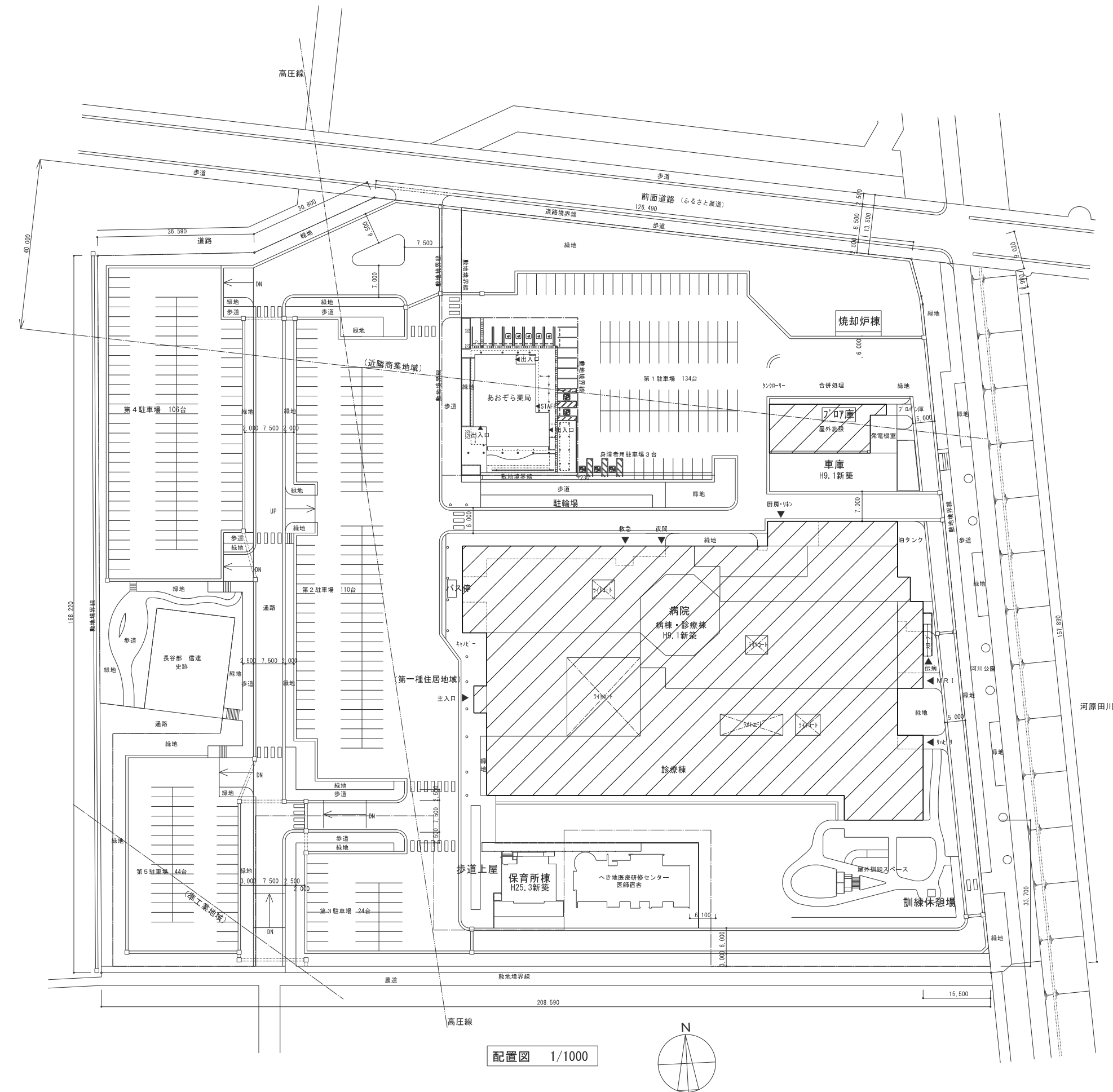
章	項 目	特 記 事 項																				
●		2) 請負契約約款第 1 4 条第 3 項に定める工事写真は次のとおり。 ・ 地中埋設配管部 ○ 機器の基礎及びアンカーボルト埋設部 ・ 塗装工程 ・ 保温工程 ○ 天井、トレンチ内の隠ぺい箇所 ・ 躯体スリーブ 3) 区分による規格、枚数、部数は次による。																				
		<table><tr><th>区 分</th><th>大 き さ (mm)</th><th>撮 影 枚 数</th><th>部 数</th><th>備 考</th></tr><tr><td>着工前</td><td>100×148程度</td><td>監督員の指示による</td><td>1 部</td><td>工事期間中は現場事務所に整理保管し、</td></tr><tr><td>工事中</td><td>85×115程度</td><td>監督員の指示による</td><td>1 部</td><td>工事完成時に提出する。</td></tr><tr><td>完成時</td><td>100×148程度</td><td>監督員の指示による</td><td>1 部</td><td>A 4 用紙に整理したもの</td></tr></table>	区 分	大 き さ (mm)	撮 影 枚 数	部 数	備 考	着工前	100×148程度	監督員の指示による	1 部	工事期間中は現場事務所に整理保管し、	工事中	85×115程度	監督員の指示による	1 部	工事完成時に提出する。	完成時	100×148程度	監督員の指示による	1 部	A 4 用紙に整理したもの
	区 分	大 き さ (mm)	撮 影 枚 数	部 数	備 考																	
	着工前	100×148程度	監督員の指示による	1 部	工事期間中は現場事務所に整理保管し、																	
	工事中	85×115程度	監督員の指示による	1 部	工事完成時に提出する。																	
	完成時	100×148程度	監督員の指示による	1 部	A 4 用紙に整理したもの																	
		4) 完成写真の撮影は、次による。 ・ 建築写真撮影業者 ※ 建築写真撮影業者以外																				
		5) 写真は A 4 用紙に順序よく貼付又は印刷し、説明事項を記入して提出する。																				
		6) 中間検査又は監督員の指示により、手直しを命じられた工事は、手直し前、中、後が判断できる写真を撮影し、報告書に添付し提出する。																				
	16 部分払いの対象 工事材料	請負契約約款第 3 7 条第 1 項に定める部分払の対象とする工事材料は次のとおり。 ・ 機器 ・ 器具 ・ 配管 ・																				
⑰ 火災保険等	請負契約約款第 4 9 条に定める火災保険等は次のとおり。（加入期間は着工日より引渡日まで） ※ 組立保険 ・ 建設工事保険																					
⑱ 耐震施工	次に示す事項を除き、すべて独立行政法人建築研究所監修の「建築設備耐震設計・施工指針 2 0 1 4 年版」による。 (3-2.1.1(5))																					
共	1) 機器の設計用標準水平震度及び耐震クラスは図示による。図示がなければ次による。																					
	<table><tr><th rowspan="3">設置場所</th><th colspan="2">耐震安全性の分類（重要機器、一般機器共通）</th></tr><tr><th>特定の施設</th><th>一般の施設</th></tr><tr><th>・ 耐震クラス S</th><th>○ 耐震クラス A</th></tr><tr><td>上層階、屋上及び塔屋</td><td>2. 0</td><td>1. 5 < 2. 0 ></td></tr><tr><td>中間階</td><td>1. 5</td><td>1. 0 < 1. 5 ></td></tr><tr><td>一階及び地下階</td><td>1. 0 （1. 5）</td><td>1. 0</td></tr></table>	設置場所	耐震安全性の分類（重要機器、一般機器共通）		特定の施設	一般の施設	・ 耐震クラス S	○ 耐震クラス A	上層階、屋上及び塔屋	2. 0	1. 5 < 2. 0 >	中間階	1. 5	1. 0 < 1. 5 >	一階及び地下階	1. 0 （1. 5）	1. 0					
設置場所	耐震安全性の分類（重要機器、一般機器共通）																					
	特定の施設		一般の施設																			
	・ 耐震クラス S	○ 耐震クラス A																				
上層階、屋上及び塔屋	2. 0	1. 5 < 2. 0 >																				
中間階	1. 5	1. 0 < 1. 5 >																				
一階及び地下階	1. 0 （1. 5）	1. 0																				
	注1 設置場所の区分は、機器等を支持する床部分により適用し、天井面（上階床）より支持する機器等は直上階を適用する。																					
	注2 上層階は、2～6階建の場合は最上階、7～9階建の場合は上層 2 階、10～12階建の場合は上層 3 階、13階建以上の場合は上層 4 階とする。																					
	注3 （ ） 内の値は水槽類（受水槽、高置水槽、消火関係水槽、オイルタンク等）、< > 内の値は防振支持の機器（防振材・防振装置を介して設置される機器）に適用する。																					
	2) 地域係数は 1. 0 とする。																					
	3) 設計用鉛直地震力は、設計用水平地震力の 1／2 とし水平地震力と同時に働くものとする。																					
	4) 重量 1 t N 以下の軽量な機器（標準仕様書の適用を受けるものは除く）においても耐震を考慮し、据付け又は取付けを行うものとするが、前記指針の方法によらなくてもよい。																					
通	⑲ 名札の義務																					
	請負金額 1 0, 0 0 0 千円以上の元請工事の現場代理人及び主任（監理）技術者は顔写真付き名札を常時着用する。下記の寸法等は、参考であり、社員証等に替えることができる。																					
	⑳ 退職金共済制度																					
	受注者は建設業退職金共済制度に加入し、本工事の掛金収納書を工事請負契約締結後 1 ヶ月以内に監督員を通じて発注者に提出する。また、現場事務所に適用標識（シール）を掲示する。																					
	㉑ 過積載等の防止																					
	1) 積載重量制限を超えて土砂等を積み込まず、また積み込ませない。																					
	2) さし枠装着車、不表示車等に土砂等を積み込まず、また積み込ませない。																					
	3) 過積載車両、さし枠装着車、不表示車等から土砂等の引き渡しを受ける等、過積載を助長しないようにする。																					
	4) 取引関係のあるダンプカー事業車が過積載を行い、又はさし枠装着車、不表示車等を土砂等運搬に使用している場合は、早急に不正状態を解消する措置を講ずる。																					
事	5) 建設発生土の処理及び資材の購入に当たって、下請事業者及び骨材納入業者の利益を不当に害することのないようにする。																					
	6) 「土砂等を運搬する大型自動車による交通事故の防止等に関する特別措置法」（昭和 4 2 年 8 月 2 日法律第 1 3 1 号。以下「法」という。）の目的に鑑み、法第 1 2 条に規定する団体等の設立状況を踏まえ、同団体等への加入者の使用を促進する。																					
	7) 1) から 6) につき、元請建設業者は下請建設業者を十分指導する。																					
22 景観への配慮	本工事は、石川県公共事業景観形成ガイドラインに基づく下記の事業であり、景観に配慮した施工に努める。 ・ 重点事業 ・ 一般事業																					
23 総合評価方式における技術提案	「石川県建設工事総合評価方式試行要領」に基づく、「技術提案」がある場合は、提案内容を本工事において確実に履行し、「技術提案履行状況報告書」を監督員に提出の上、履行状況の確認を受ける。履行にあたり疑義が生じた場合は、速やかに監督員と協議する。																					
24 電子納品	※ 行う（「電子納品仕様書」による。） ・ 行わない 電子納品仕様書 1 電子納品とは、出来形管理資料や工事写真等の工事完成図書を電子データで納品するものである。 ここでいう電子データとは、下表に示す各種電子納品要領等で定めるフォーマットに基づいて作成されたものを指す。																					
	<table><tr><th>名 称</th></tr><tr><td>営繕工事電子納品要領（令和 3 年改定）</td></tr><tr><td>官庁営繕事業に係る電子納品運用ガイドライン【営繕工事編】（令和 4 年改定）</td></tr></table>	名 称	営繕工事電子納品要領（令和 3 年改定）	官庁営繕事業に係る電子納品運用ガイドライン【営繕工事編】（令和 4 年改定）																		
名 称																						
営繕工事電子納品要領（令和 3 年改定）																						
官庁営繕事業に係る電子納品運用ガイドライン【営繕工事編】（令和 4 年改定）																						
項	基準・要領類のダウンロード http://www.mlit.go.jp/gobuild/gobuild_tk2_000017.html																					

章	項 目	特 記 事 項
●	25 公共事業労務費調査の協力	2 工事関係書類の最終成果品を、従来の紙での納品と別に C D - R、D V D - R 又は B D - R で 1 部納品する。
		3 工事着手時には、事前協議チェックシートを用いて事前協議を行うものとする。
		工事関係書類の内、電子データで提出するものは、事前協議にて決定する。
		受注者は、当該工事が発注者の実施する公共事業労務費調査の対象工事となった場合には、次の各号に掲げる協力を行わなければならない。工期経過後においても同様とする。
		① 調査票等に必要事項を正確に記入し、発注者に提出する等必要な協力をする。
		② 調査票等を提出した事業所が、事後に発注者が行う調査・指導の対象になった場合には、その実施に協力する。
		③ 正確な調査票等の提出が行えるよう、労働基準法等に従い就業規則を作成すると共に賃金台帳を調整・保存する等、日頃より使用している現場労働者の賃金時間管理を適切に行う。
		④ 下請負に付する場合には、当該下請工事受注者（当該下請工事の一部に係る二次以降の下請負人を含む）が前各号と同様の義務を負う旨を定める。
		受注者は、雇用者等の業務に関して生じた負傷、疾病、死亡及びその他の事故に対して責任をもって適正な補償をしなければならない。（法定外の労災保険を含む）
		26 事故の補償
●	1 煙道	ばい煙濃度計取付座、ばい煙量測定口、伸縮継手及び掃除口は図示による。 (1.1.2)
		2 冷媒
		パッケージ形空調機等の冷媒の種類は、図示による。 (1.7.5.15)
		3 ダクト
		1) 低圧ダクト ・ アングルフランジ工法 ・ スパイラルダクト (1.14.3.1～2)
		・ コーナールボルト工法（ ・ 共板フランジ ・ スライドオンフランジ ）
		2) 高圧ダクトの適用範囲は図示による。
		3) 厨房用長方形排気ダクトの板厚は、標準仕様書の 1 ランク厚いものを使用する。 (1.14.3.5)
		消音内貼りを施すチャンバーは、図示による。 (1.14.6.(1))
		4 チャンバー
●	5 風量測定口	取り付け位置は、図示による。 (2.2.5.5)
		6 基礎
		防振基礎は、図示による。 (2.1.1(3))
		7 配管材料
		1) 冷温水管 ○ 配管用炭素鋼鋼管(白) ・ (2-2.1.2.1)
		2) 冷却水管 ・ ポリ粉体ライニング鋼管(PB) ・
		・ 水道用硬質塩化ビニルライニング鋼管(※ VA ・ VB)
		3) 蒸気管 給気管 ・ 圧力配管用炭素鋼鋼管(黒) ※ 配管用炭素鋼鋼管(黒) (2-2.1.2.2)
		還管 ※ 圧力配管用炭素鋼鋼管(黒) ・
		4) 油管 屋内 ・ 配管用炭素鋼鋼管(黒)
●	8 伸縮管継手	・ ポリエチレン被覆鋼管(PLS(PE1H))
		・ 屋外露出、暗渠 硬質塩化ビニル被覆鋼管(PLV)
		5) 冷媒配管 ※ 断熱材被覆鋼管 ・ 鋼管 (2-2.1.2.4)
		6) 空調用ドレン管 ・ 配管用炭素鋼鋼管(白) (2-2.1.2.6)
		○ 硬質ポリ塩化ビニル管(VP)(屋内露出を除く)
		7) 膨張管、空気抜き管及び膨張タンクよりボイラーへの給水管は配管用炭素鋼鋼管(白)とする。鋼管用伸縮管継手の種類は図示による。 (2-2.2.7.1)
		9 瞬間流量計
		・ 着脱形 ・ 固定形 を設ける。 (2-2.3.8)
		10 保温
		1) 配管、ダクト及び機器の保温材料は（別表－2）による。 (2-3.1.4)
●	11 冷媒(フロン類)の回収	2) 還りダクト（RAダクト）の保温範囲は図示による。
		3) 外気取入れダクト（OAダクト）の保温範囲は図示による。
		4) 外壁 1 m 以内のダクト及び多湿箇所（図示の範囲）のダクトは保温（25mm 厚）を行う。
		5) 膨張タンクよりボイラーへの補給水管の保温は、温水管の項による。
		6) 建物内の空気抜き管の保温は、温水管の項による。
		1) 業務用冷凍空調機器等（エアコンディショナー、冷蔵機器、冷凍機器等）で「フロン排出抑制法」の対象となっている機器 (改2.4.3)
		・ 「第一種フロン類充填回収業者登録通知書」の写しを提出する。
		・ 「フロン類引取証明書」を提出する。
		2) 家庭用のエアコン等で「家電リサイクル法」の対象となっている機器
		・ 「特定家庭用機器廃棄物管理票(家電リサイクル券)」の写しを提出する。
○	自動制御設備	1 システム構成
		図示による。 (1.1.1(2))
		2 電源装置
		無停電電源装置は、図示による。 (1.4.2.9)
		3 電気計装用配線
		原則、配線は EM ケーブル等とし、天井隠ぺい部は、図示がなければケーブル配線とする。 (1.5.1)(2.3.1)
		給排水衛生設備
		1 水栓
		水抜栓を使用する系統の水栓は、固定こま式とする。 (1.1.6)
		2 量水器
●	給排水衛生設備	1) ・ 親メーター（ ・ 貸与品 ・ 買取 ） ・ 子メーター（ ・ 買取 ・ ） (2-2.2.16)
		2) 量水器樹 ・ 水道事業者指定品（ ・ 貸与品 ・ 買取 ） ・ 標準図 MC 形 (1.8.4)
		水中ケーブルの長さは、図示による。 (1.2.7)
		3 汚水用水中ポンプ

章	項 目	特 記 事 項				
●	④ タンクの保温	ステンレス鋼板製タンクの保温を ○ 行う ・ 行わない (1.4.2.4)(1.4.2.5)				
	⑤ 緊急遮断弁装置	受水槽、高架水槽に設ける緊急遮断弁装置は、図示による。 (2-2.2.22)				
	⑥ 配管材料	1) 給水管 一般 ・ ポリ粉体ライニング鋼管(PB) ○ ステンレス鋼鋼管 (2-2.1.2.5) ・ 水道用硬質塩化ビニルライニング鋼管(※ VA ・ VB) 厨房、浴室等のシンダー内 ・ ポリ粉体ライニング鋼管(PD) ・ 水道用硬質塩化ビニルライニング鋼管(VD) 地中 ・ ポリ粉体ライニング鋼管(PD) ・ ステンレス鋼鋼管 ・ 水道用硬質塩化ビニルライニング鋼管(VD) ・ 水道用硬質ポリ塩化ビニル管(HIVP) ・ 水道用ポリエチレン管 引込管（直結部分）は水道事業者指定のものとし、図示による。加入負担金は別途 2) 給湯管（膨張管及び補給水タンクよりボイラーなどへの補給水管を含む。） ・ 鋼管（壁又は床埋設は、被覆鋼管又は保温付被覆鋼管としてもよい。） ・ ステンレス鋼鋼管 ・ 耐熱性塩化ビニルライニング鋼管 3) 消火管 一般 ・ 配管用炭素鋼鋼管(白) 地中 ・ 消火用硬質塩化ビニル外面被覆鋼管(VS) 4) 排水管 屋内 ・ 硬質ポリ塩化ビニル管(VP) ・ 耐火二層管(VP) (2-2.1.2.6) ・ リサイクル発泡三層管(RF-VP) ○ ステンレス鋼鋼管 屋外 ・ 硬質ポリ塩化ビニル管(VP) 圧送 ・ 硬質ポリ塩化ビニル管(VP) ・ 水配管用垂鉛めっき鋼管 5) 通気管 ・ 硬質ポリ塩化ビニル管(VP) ・ 耐火二層管(VP) ・ リサイクル発泡三層管(RF-VP) ○ ステンレス鋼鋼管				
	⑦ 保温	配管及び機器の保温材料は（別表－ 2）による。 (2-3.1.5)				
	8 洗面器等の	洗面器及び手洗器に直結する排水管は、器具トラップより 1 サイズアップとする。 (2-2.4.8)				
	9 滴水試験継手	取付け位置は、図示による。 (2-2.9.4)				
	○	1 配管材料	1) 屋内 ・ 配管用炭素鋼鋼管(白) (改2.1.1)(3.1.1) 2) 地中 ・ ポリエチレン被覆鋼管(PLS(PE1H)) ・ ガス用ポリエチレン管 3) 屋外露出、暗渠 ・ 硬質塩化ビニル被覆鋼管(PLV) ・ 配管用炭素鋼鋼管(白)			
	2 メーター	・ 親メーター(・ 貸与品 ・) ・ 子メーター(・ 買取 ・) (2.1.7)(3.1.3.4)				
	3 ガス漏れ警報器	・ 本工事（図示による） ・ 別途工事 (2.1.3)(3.1.3.6)				
	4 その他	ガス遮断装置、漏洩検知装置、電気防食措置、ポンベの転倒防止措置は、図示による。				
(別表－ 1) 他工事との取り扱い						
工 事 内 容		機械	電気	建築	備 考	
開口部	はり、床、壁の貫通部（RC造）	スリーブ、仮枠、穴埋共	●			S 造は建築
		補 強 筋			●	建築図面に図示
	天井、壁の切り込み	ボ ー ド 類 切 込 み	●			
		下 地 補 強			●	建築図面に図示
外部取付ガラリ（ダクト、チャンバの接続用フランジを含む）				●	建築図面に図示	
レンジフードファン、フード（取付枠共）及び流し台（排水トラップ共）				●		
洗面所、手洗所等の大型鏡、はめ込型洗面器用カウンター及び身障者用手すり				●		
下流し、足洗い場及び玄関の排水		●				
床、天井、壁の点検口及び床下水槽のマンホール蓋				●	建築図面に図示	
屋内外設備（受水槽、ポンプ等）の基礎				●	建築図面に図示	
屋上設備の基礎				●	建築図面に図示	
地下油タンク室等のコンクリート工事				●	建築図面に図示	
油サービスタンクの防油堤				●		
ボイラーの煙突及びプロパンボンベ庫（既製のものは機械）				●		
実験台（陶器製流し、化学水栓、ガス栓及びコンセント共付属品を含む）				●		
実験台への配管及び配管接続		●				
電気配線	機器付属の制御盤以降の配管配線（接地共）		●			二次側
	機器付属の制御盤への電源供給の配管配線			●		一次側
	制御盤と動力盤間の電源供給及び操作回路の渡り配管配線			●		
	機器と付属操作スイッチとの渡り配管配線			●		

[illegible]

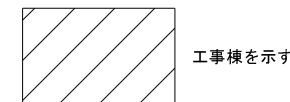
<p>① 保温なし不燃材配管（耐火二層管含む）</p>	<p>② 保温あり不燃材配管</p>	<p>③ 保温なし排水用硬質塩化ビニール管（V P）</p>												
<div><div><p>(a) コンクリート床</p><p>1. 紙製のスリーブを使用する場合は配管施工前に撤去する。 2. 鋼管については、モルタル充填前に防食テープを施すこと。</p><p>※耐火二層管を使用する際は、縦管及び横引1mまで使用のこと。 耐火二層管：国土交通大臣認定 床 PS060FL-0454 壁 PS060WL-0273</p></div><div><p>(b) 中空壁</p><p>A工法 B工法 C工法</p><p>1. C工法を採用する場合は、隙間は原則として5mm以下とすること。 2. 鋼管については、モルタル充填前に防食テープを施すこと。</p></div></div>	<div><div><p>(a) コンクリート床</p><p>1. 紙製のスリーブを使用する場合は撤去する。 2. 伸縮のある配管は保温の有無に拘らず当標準によること。（保温のない温水管、凝縮水管等） 3. ステンレス管の場合はロックウールと接触する箇所はエポキシ系塗装により絶縁すること。 4. 貫通部にグラスウールを使用する場所は所轄官庁の了解を得ること。</p></div><div><p>(b) 中空壁</p><p>A工法 B工法 C工法</p><p>1. C工法を採用する場合は、隙間は原則として5mm以下とすること。 2. 伸縮のある配管は保温の有無に拘らず当標準によること。 3. ステンレス管の場合はロックウールと接触する箇所はエポキシ系塗装により絶縁すること。 4. 貫通部にグラスウールを使用する場合は所轄官庁の了解を得ること。</p></div></div>	<div><div><p>(a) コンクリート床</p><p>■使用可能な配管口径（呼称寸法）</p><table><tr><th colspan="4">配管が貫通する床、壁等の構造部分</th></tr><tr><th>防火構造</th><th>30分防火構造</th><th>1時間防火構造</th><th>2時間防火構造</th></tr><tr><td>100mm</td><td>100mm</td><td>75mm</td><td>50mm</td></tr></table></div><div><p>(b) 中空壁</p><p>A工法 B工法 C工法</p><p>■使用配管材料 1. 当標準は厚肉塩ビ管（VP管、VPW管等）に適用する。貫通部にVU管を使用してはならない。</p></div></div>	配管が貫通する床、壁等の構造部分				防火構造	30分防火構造	1時間防火構造	2時間防火構造	100mm	100mm	75mm	50mm
配管が貫通する床、壁等の構造部分														
防火構造	30分防火構造	1時間防火構造	2時間防火構造											
100mm	100mm	75mm	50mm											
<p>④ 保温あり排水用硬質塩化ビニール管（V P）</p>	<p>⑤ 硬質塩化ビニール管（V P）の使用制限</p>	<p>⑥ 冷媒管</p>												
<div><div><p>(a) コンクリート床</p><p>■使用可能な配管口径（呼称寸法）</p><table><tr><th colspan="4">配管が貫通する床、壁等の構造部分</th></tr><tr><th>防火構造</th><th>30分防火構造</th><th>1時間防火構造</th><th>2時間防火構造</th></tr><tr><td>100mm</td><td>100mm</td><td>75mm</td><td>50mm</td></tr></table></div><div><p>(b) 中空壁</p><p>A工法 B工法 C工法</p><p>■使用配管材料 1. 当標準は厚肉塩ビ管（VP管、VPW管等）に適用する。貫通部にVU管を使用してはならない。</p></div></div>	配管が貫通する床、壁等の構造部分				防火構造	30分防火構造	1時間防火構造	2時間防火構造	100mm	100mm	75mm	50mm	<div><div><p>(a) 壁</p><p>1時間耐火 125VP排水管 1時間耐火 熱膨張耐火材 100VP 0～10mm モルタル埋め 75VP 1時間耐火 50VP 1時間耐火 モルタル埋め 75VP 2時間耐火 PS内 たて穴区画</p></div><div><p>(b) 床</p><p>1時間耐火 モルタル埋め 75VP排水管 熱膨張耐火材 2時間耐火 0～10mm モルタル埋め 100VP排水管 熱膨張耐火材 1時間耐火 0～10mm モルタル埋め</p></div></div> <p>※防火区画を貫通する排水管は熱膨張耐火材を設置する。但し、最大使用口径（呼び径）は100VPとする。 熱膨張耐火材：国土交通大臣認定番号 床 PS060FL-0013 壁 PS060WL-0069 中空壁 PS060WL-0103</p>	<div><div><p>(a) コンクリート床</p><p>耐火キャップ：国土交通大臣認定番号 床 PS060FL-9369 壁 PS060WL-9370</p></div><div><p>(b) 中空壁</p></div><div><p>(c) コンクリート壁</p></div></div>
配管が貫通する床、壁等の構造部分														
防火構造	30分防火構造	1時間防火構造	2時間防火構造											
100mm	100mm	75mm	50mm											
<p>⑦ 金属電線管</p>	<p>⑧ ダクト防火区画貫通部施工要領</p>	<p>⑨ 換気扇・ガリ廻りタテ要領</p>												
<div><div><p>(a) コンクリート床</p><p>熱膨張耐火材 1000mm以上 1000mm以上 モルタル ケーブル 鋼製電線管 防火区画壁</p></div><div><p>(b) 壁</p><p>熱膨張耐火材 1000mm以上 1000mm以上 耐熱シール材 ケーブル 鋼製電線管 防火区画壁</p></div></div> <p>熱膨張耐火材：国土交通大臣認定番号 床 PS060FL-0290 壁 PS060WL-0268・0269</p>	<div><div><p>(a) 保温なし鉄板ダクト（乾式中空壁）</p><p>吊金物（脱落防止） FD 1.6mm以上 C部詳細（スバィルダクトの場合） 点検口（450口以上） 天井</p></div><div><p>(b) 保温あり鉄板ダクト（乾式中空壁）</p><p>吊金物（脱落防止） FD 1.6mm以上 C部詳細（スバィルダクトの場合） 点検口（450口以上） 天井</p></div></div> <p>1. ダンパー検査口・ハンドルは壁仕上面から200mm以上離す。 2. 建築基準法告示第1376号に基づき、天井、壁等に1辺の長さが45cm以上の保守点検が容易に行える点検口等を設けること。</p>	<div><div><p>(a) 天井埋込換気扇据付要領</p><p>アルミフレキシブルダクト スバィルダクト クレタ系コーキング（全周） 外部フード（ステンレス） 防虫網（ステンレス）</p></div><div><p>(b) 壁付換気扇据付要領</p><p>スリーブ・取付枠 クレタ系コーキング（全周） ジャッキ 外部フード（ステンレス） 防虫網（ステンレス）</p></div><div><p>(c) 外壁ガリ廻りタテ接続要領</p><p>防虫網（建築） チャンバー 風道 ガリ廻り（建築） チャンバー・継目内部（全周コーキング） フィルター（サイドアクセス型）</p></div></div> <p>注記 (イ) ダクトは外部へ向って水勾配を付ける事</p> <p>設備設計一級建築士 第2136号 堂井章宏</p>												
JOB NO. 124358	2026 年 03 月	市立輪島病院災害復旧工事（その3）	一級建築士事務所 株式会社 浦建築研究所	一級建築士 第276761号 浦 淳	設計	・	・	標 題	機械設備 区画貫通施工要領図（参考）	縮 尺	N.S N.S	図 番	M - 04	



配置図 1/1000



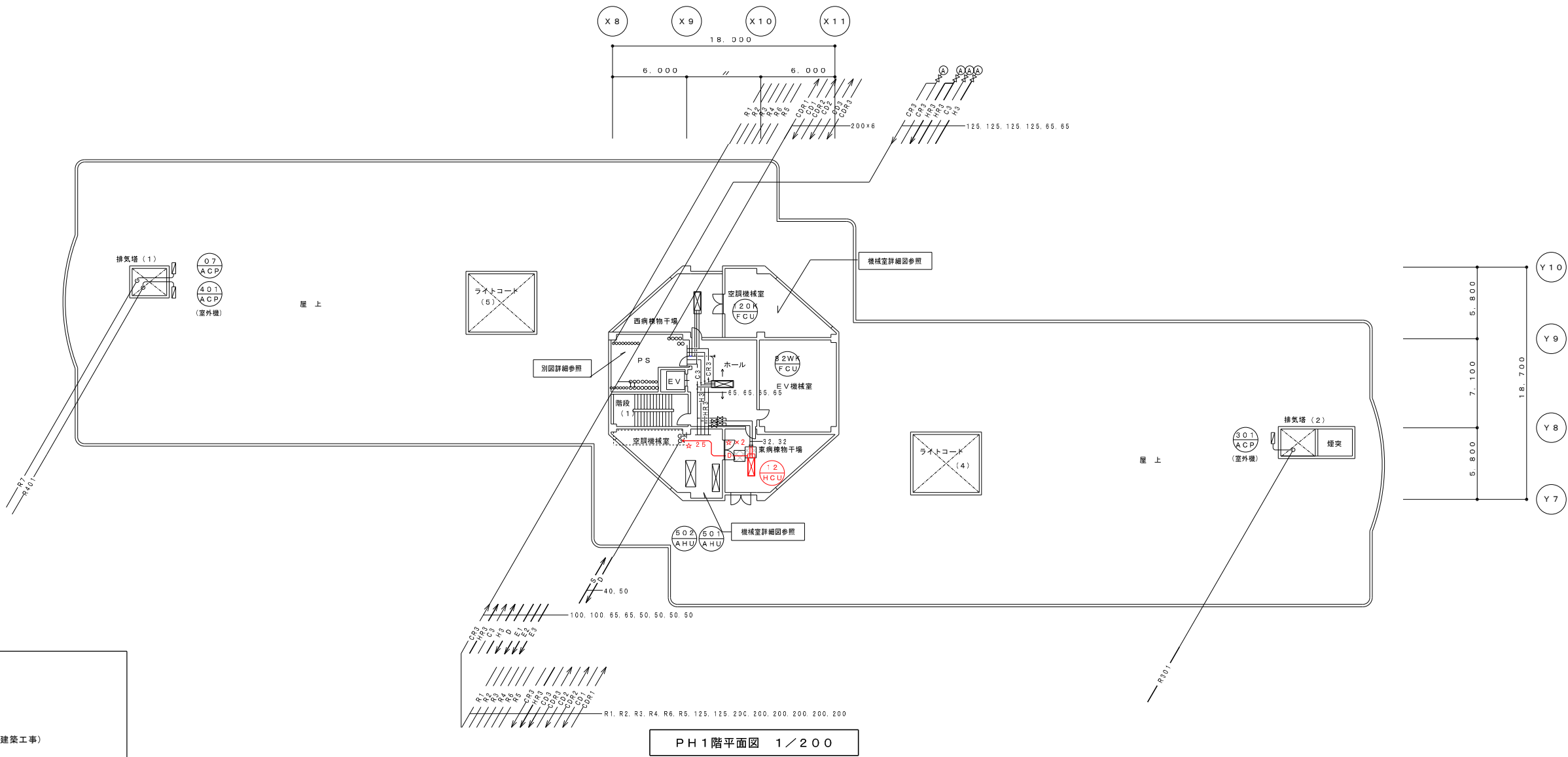
付近見取図



ファンコイルユニット(標準形)

記号	系統名	設置型式	数	冷房能力	暖房能力	風量	機外静圧	冷温水量	電源		消費電力	備考	参考品番
				kw	kw				φ	V			
HCU 12		2方吹出しカセット形	1	8.44	6.76	1,600	-	24.0	1	100	38	化粧パネル、ロングライフフィルター、ボール弁2、FJ(SUS)×2 小型電動二方弁	

- 共通事項
1. 入口空気温度 冷房:DB 26.0℃ WB 18.7℃ 暖房:DB 22.0℃
 2. 冷水:入口温度 7.0℃-出口温度12.0℃
 3. 温水:入口温度 55.0℃-出口温度 50.0℃
 4. ストレーナ付調整弁・切替弁・コントロールスイッチ(3段切替・電源表示ランプ)付・ドレンアップ功



凡例

- 赤色実線は改修部分 (2 管式)
- 黒色実線は既設部分
- ☆ 配管接続箇所
- 天井解体復旧箇所 (900×900) (FCU用) (建築工事)


注記

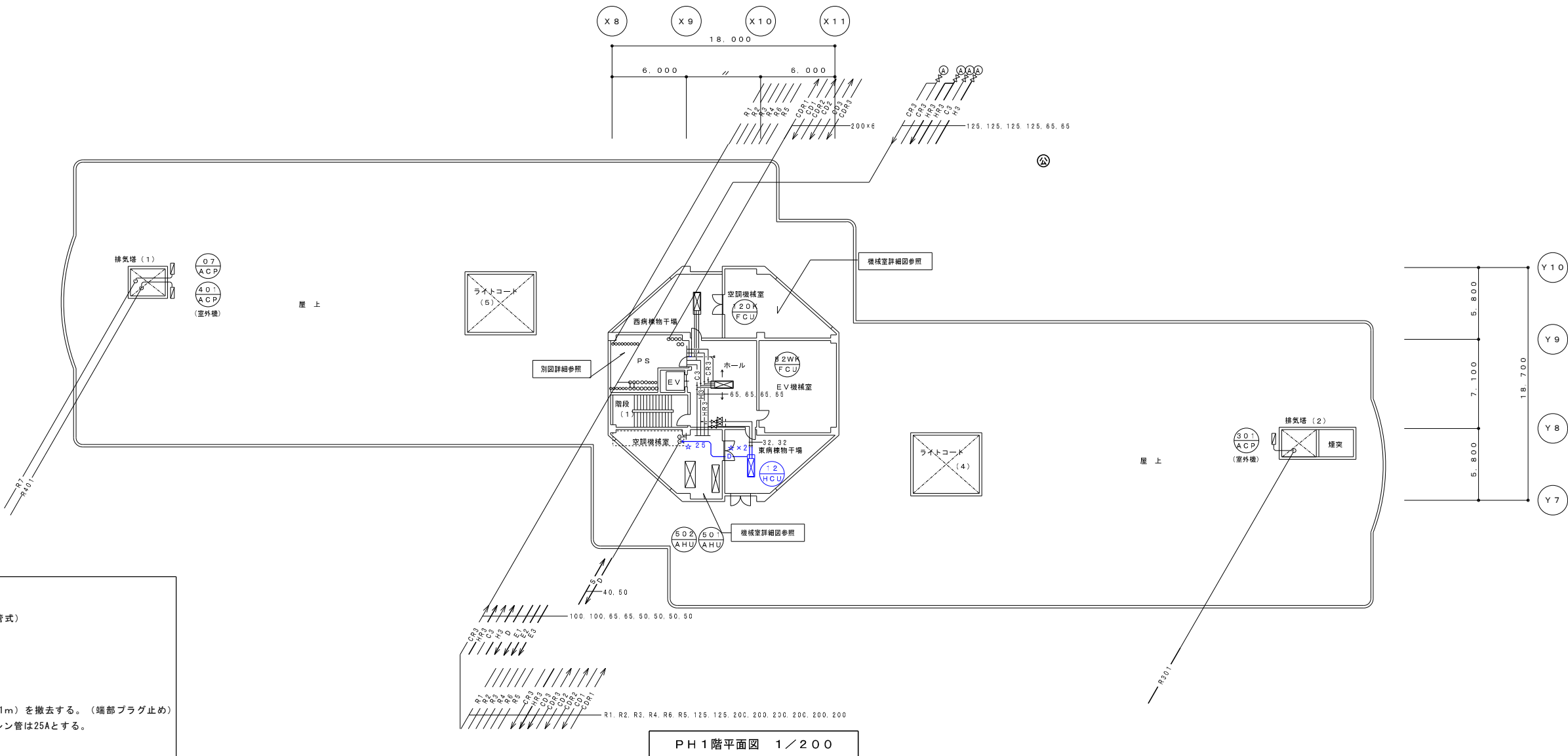
- FCU及び冷温水管 (FCUより約1m) を撤去する。
- ファンコイルの冷温水管は20A、ドレン管は25Aとする。

機 器 表 (1)

ファンコイルユニット (4 管式コイル)		系統名	台数	冷房能力	暖房能力	風量	機外静圧	水量 (l / m i n)			電気容量		付属品・備考
記号	型式			K c a l / h	K c a l / h	m ³ / h		冷温水	冷水	温水	W	φ-V	
FCU-2WK	2方吹出しカセット形		3	1,150	1,710	372	—		4.1	4.1	38	1-100	レタンコック 放熱器付
FCU-3.2WK	"		13	1,550	2,440	522	—		5.6	5.6	45	1-100	"
FCU-4.2WK	"		-	2,190	3,230	690	—		7.9	7.9	82	1-100	"
FCU-6.2WK	"		2	3,170	4,540	1,002	—		11.5	12.0	105	1-100	"
FCU-8.2WK	"		3	4,420	5,350	1,290	—		15.0	15.0	165	1-100	"
FCU-2WI	天井埋込形	心エコー室	-	1,720	2,250	510	10		4.0	4.0	48	1-100	中性能フィルタ付 レタンコック 放熱器付
FCU-6WI	天井埋込形	1F放射線科	-	3,170	4,520	954	7		12.0	12.0	107	1-100	"
FCU-8WI	"	"	-	4,790	5,320	1,254	7		15.0	15.0	168	1-100	"
HFC-1W	HEPAフィルタ付 カセット形	中央材料貯物	9	3,200	4,400	1,200	—		10.0	8.0	250	1-100	HEPAフィルタ、吹出・吸込みフェイス付
HFC-2W	"	1F血管造影室	4	4,270	5,870	1,620	—		14.0	11.0	420	1-100	レタンコック 放熱器付
HFCU-F2	2方吹出ラジコンベクター	乾燥室他	-	12,740	5,010	—	—		50	155	1-100	"	"

(注記) 1. 上記能力表示条件 (冷房) 吸込空気温度 DB 26℃ RH 50% 冷水入口温度 7℃
(暖房) 吸込空気温度 DB 22℃ 温水入口温度 55℃

注記
(1)表中  は、撤去対象機器を示す。



- 凡例
- 青色実線は撤去部分 (2 管式)
 - 黒色実線は既設部分
 - ☆ : 配管切断箇所

注記

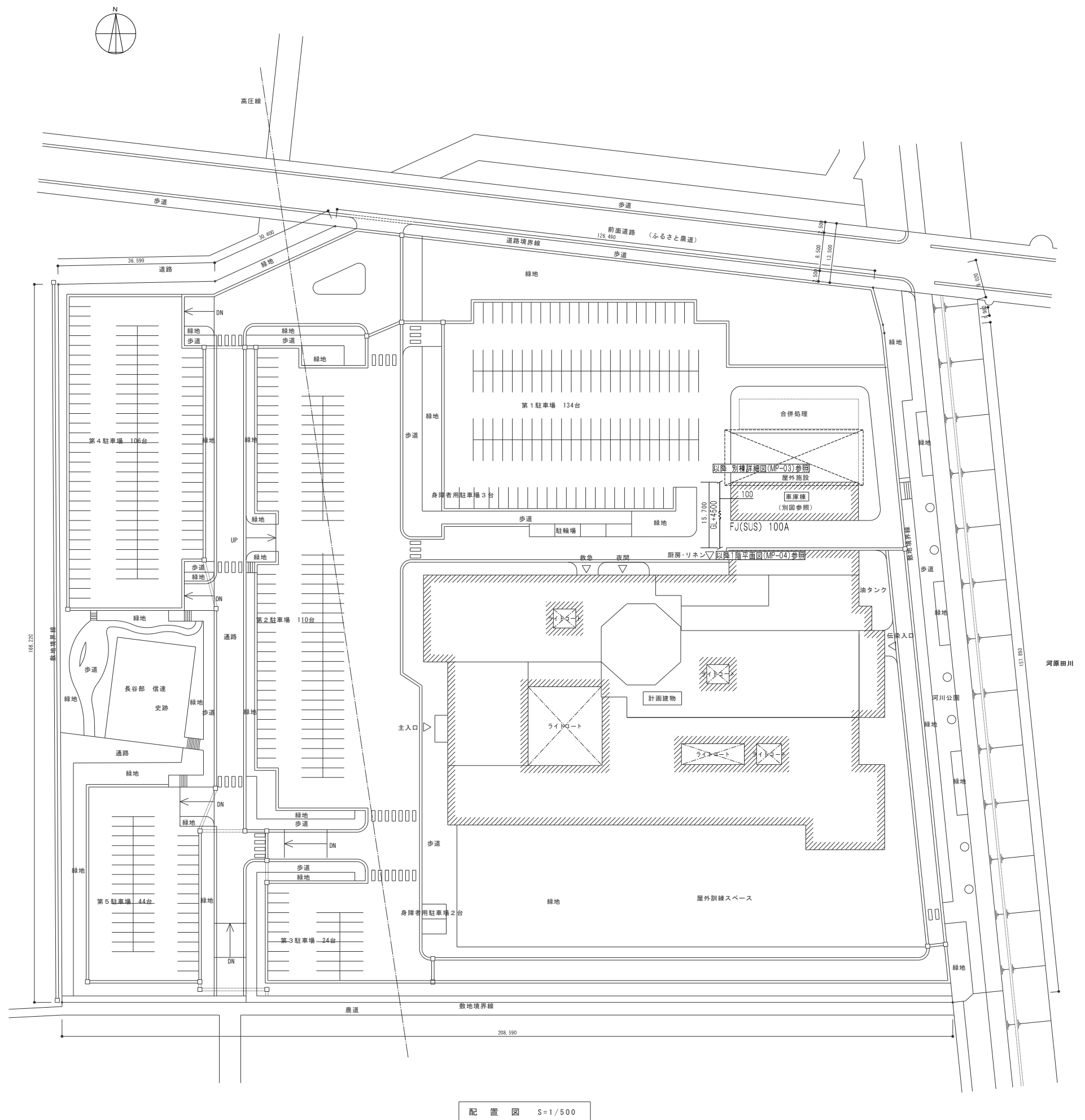
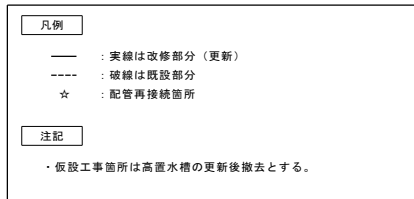
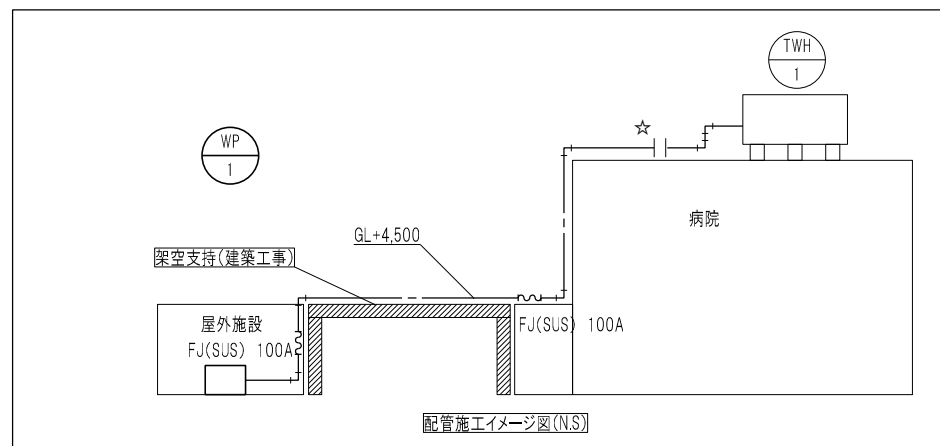
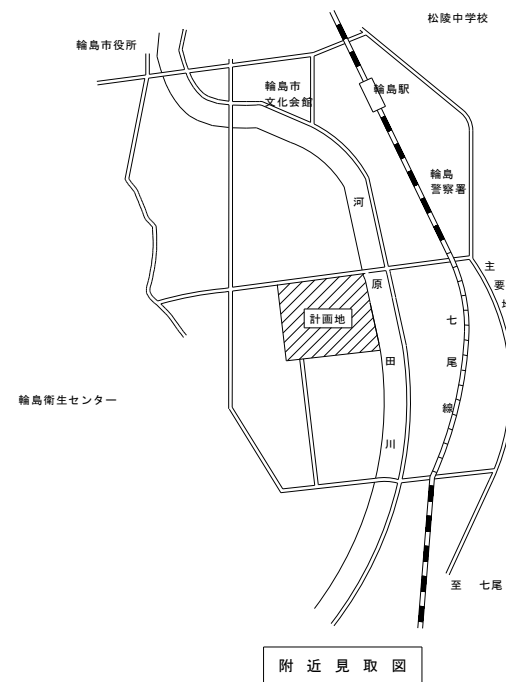
・ F C U 及び冷温水管 (F C U より約 1 m) を撤去する。 (端部プラグ止め)
ファンコイルの冷温水管は 20 A、ドレン管は 25 A とする。

加圧給水ポンプユニット

記号	型 式	口径	吐出量	揚程	電源	容量	運転操作	運転	基礎	防振ゴム	数量	備考	参考品番
		φ	L/min	m	φ-V	kw							
WP-1	推定末端圧力一定台数制御 3台並列・3台ローテーション運転 屋外カバー付 耐塩害仕様	40×80	500	63	3-200	3.7×3	-	-	基礎新設 (建築工事)	○	1	防振ゴム、制御盤、標準付属品共	NX-80VFC403-3.7T×3-e

高置水槽

記号	系統・用途	型式	材質	容量		外形寸法(タンク)			耐震	積雪	基礎	数量	備考	参考品番
				呼称	有効	W	D	H		荷重				
				m3	m3	mm	mm	mm	G	m				
TWH-1	高置水槽 耐塩害仕様	SUS製パネル型複合板溶接	気相部 SUS329J4L 液相部 SUS444	30.0	21.0	3,000	5,000 (2,500+2,500)	2,000	2.0	1.0	基礎補修 (建築工事)	1	中仕切、内外タラップ(SUS)、平架台、緊急遮断弁、制御盤 マンホール(鍍付) 防波板 通気口 電極 5P×2組、ボルト ナット(SUS)、標準付属品共	-



凡例

—

：実線は撤去部分

：破線は既設部分

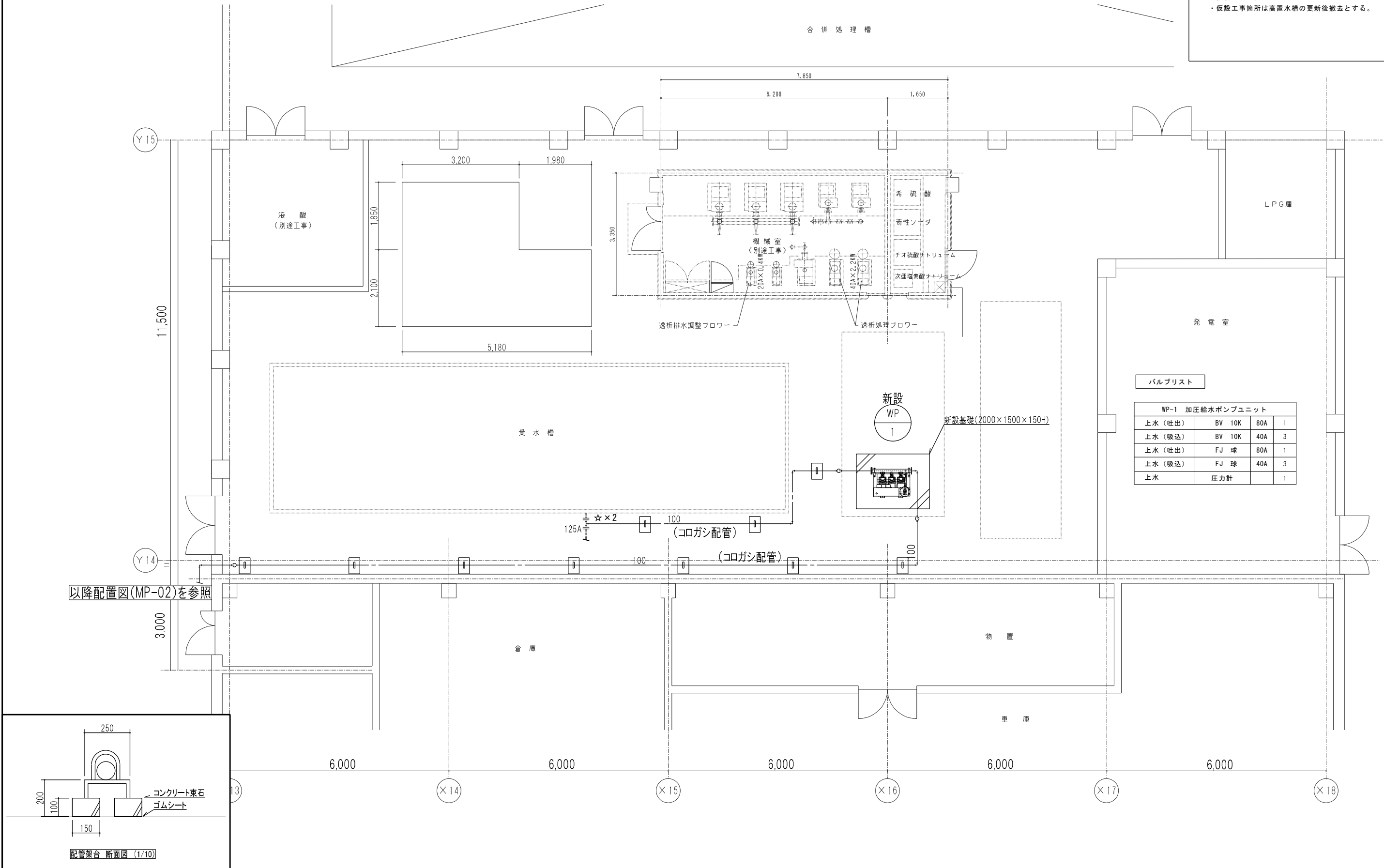
☆

：配管接続箇所

注記

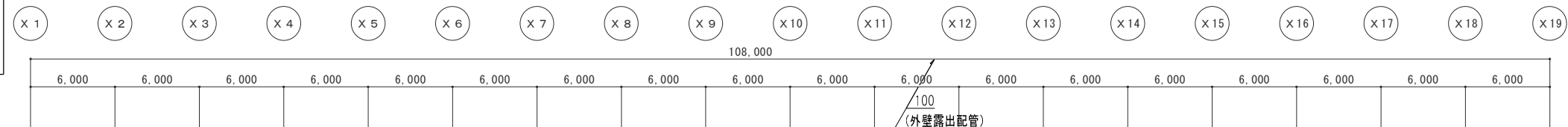
・既存受水槽の排水配管から分岐し、新設加圧給水ポンプに接続とする。

・仮設工事箇所は高置水槽の更新後撤去とする。



バルブリスト

WP-1 加圧給水ポンプユニット			
上水 (吐出)	BV 10K	80A	1
上水 (吸込)	BV 10K	40A	3
上水 (吐出)	FJ 球	80A	1
上水 (吸込)	FJ 球	40A	3
上水	圧力計		1



凡例

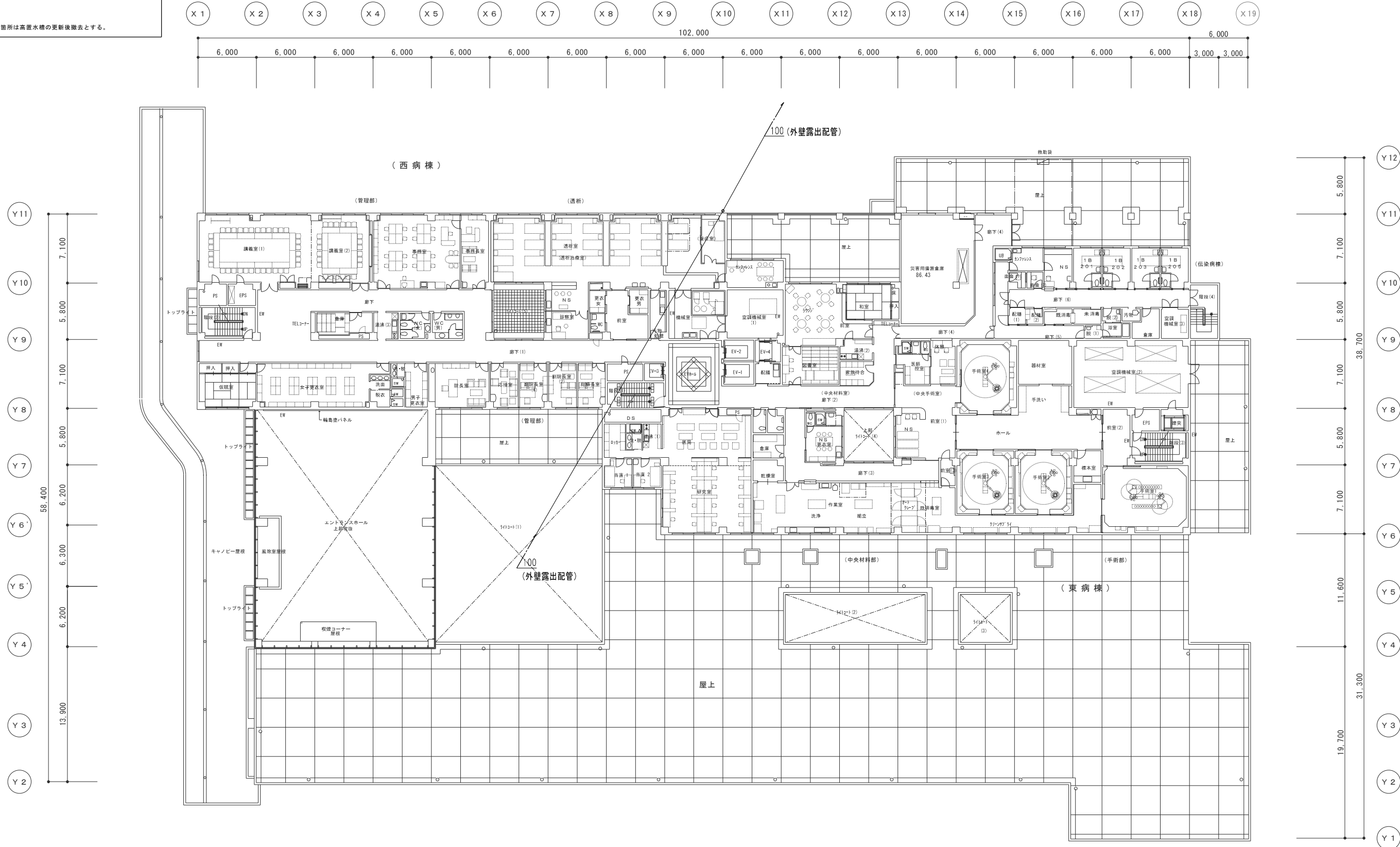
—

: 実線は改修部分（更新）

: 破線は既設部分

注記

・仮設工事箇所は高置水槽の更新後撤去とする。



2 階平面図

凡例

：実績は改修部分（更新）

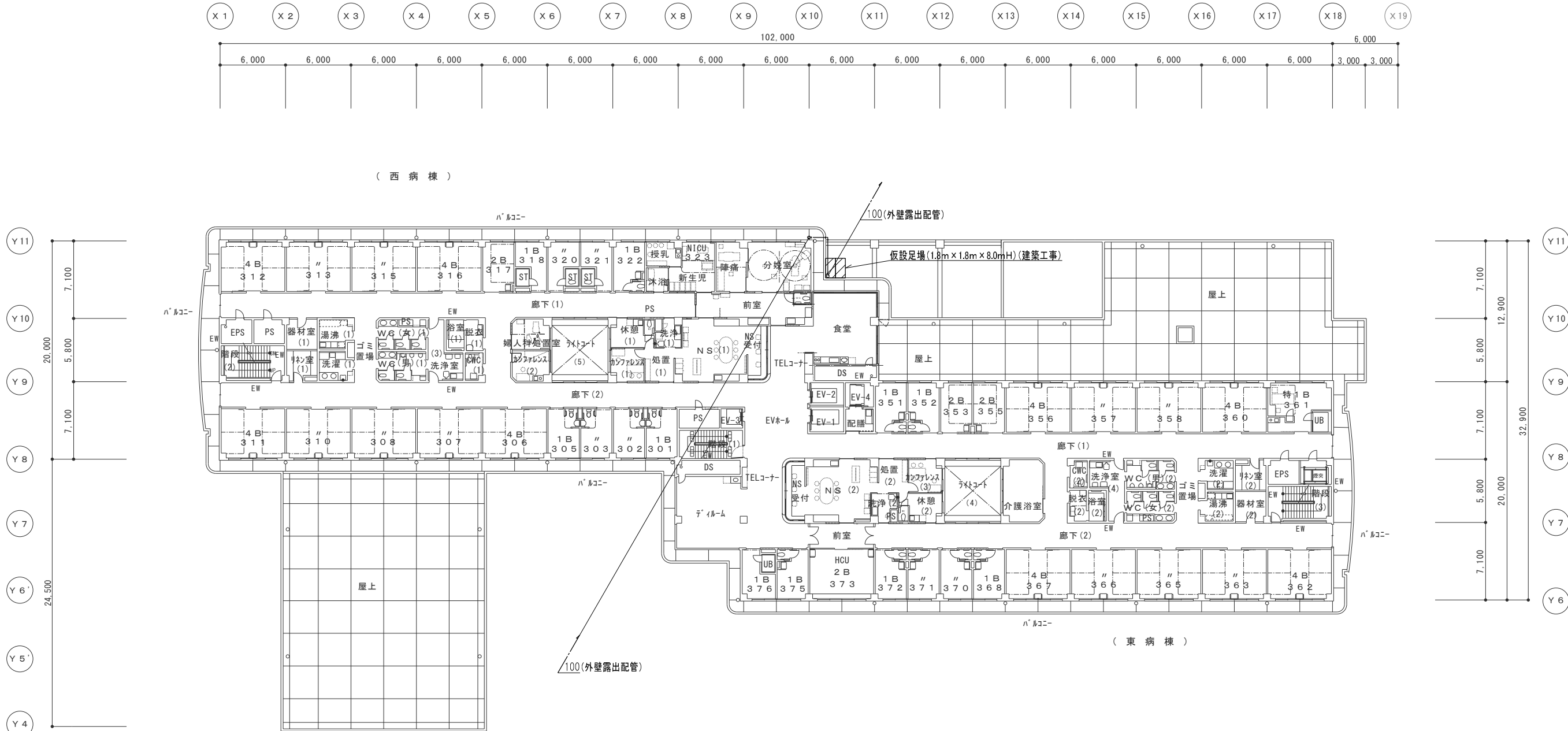
：破線は既設部分

：掘削箇所

：仮設足場

注記

・仮設工事箇所は高置水槽の更新後撤去とする。



西病棟		
	室数	床数
4B	9	36
2B	1	2
1B	8	8
特1B	0	0
NICU1B	1	1
合計	19	47

3階平面図

東病棟		
	室数	床数
4B	9	36
2B	2	4
1B	8	8
特1B	1	1
HCU2B	1	2
合計	21	51

凡例

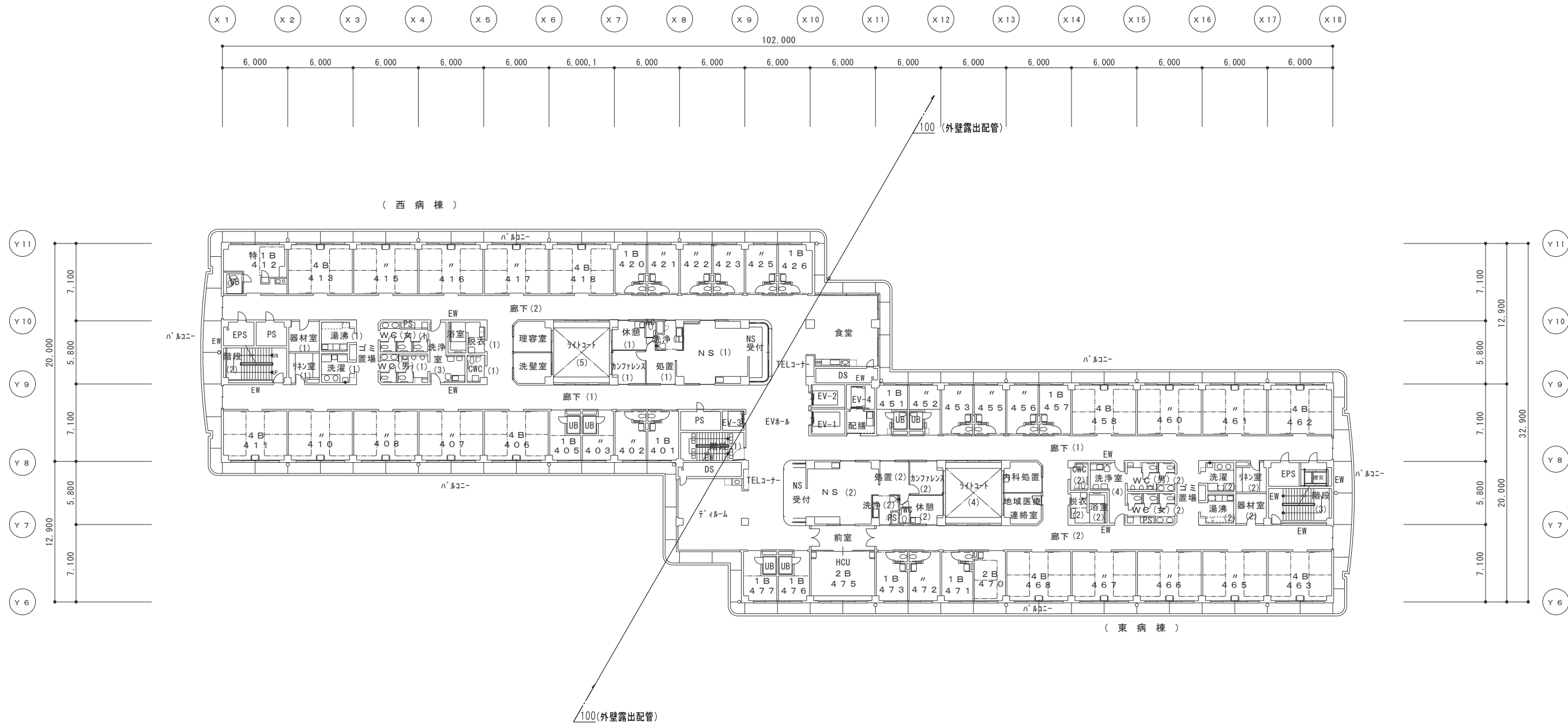
—

: 実線は改修部分（更新）

: 破線は既設部分

注記

・ 仮設工事箇所は高置水槽の更新後撤去とする。



西病棟		
	室数	床数
4 B	10	40
2 B	0	0
1 B	10	10
特1 B	1	1
HCU2 B	0	0
合計	21	51

4階平面図

東病棟		
	室数	床数
4 B	9	36
2 B	1	2
1 B	11	11
特1 B	0	0
HCU2 B	1	2
合計	22	51

凡例

実線は改修部分（更新）

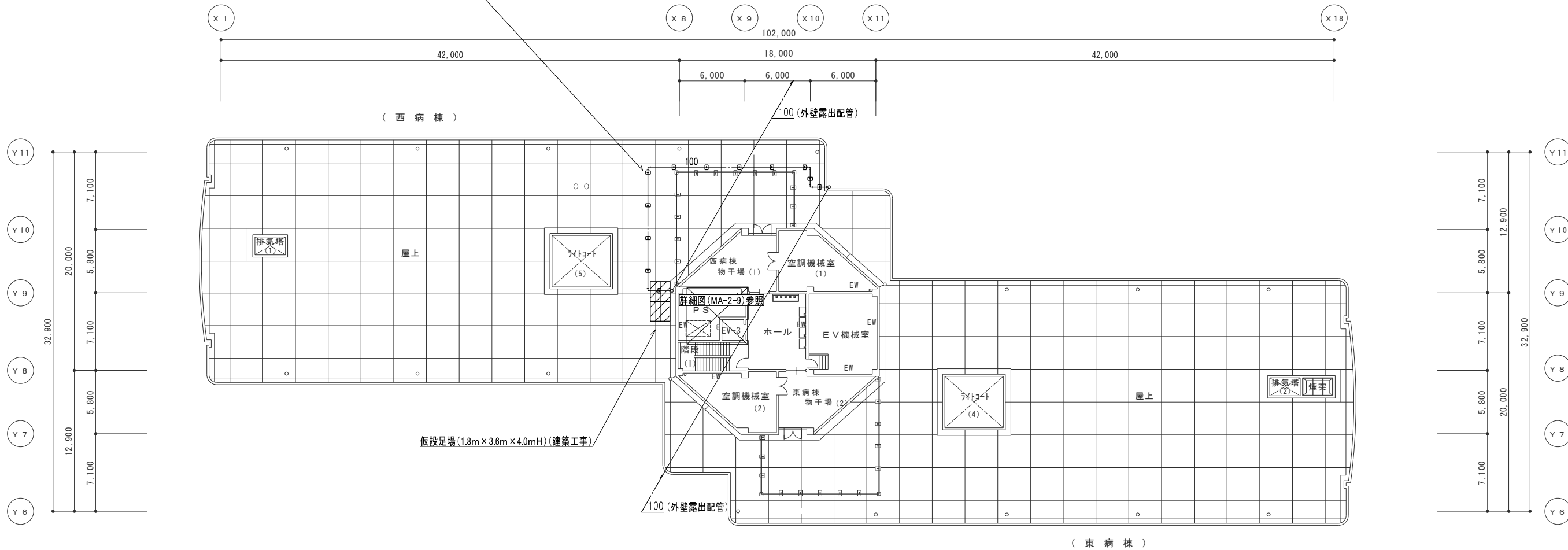
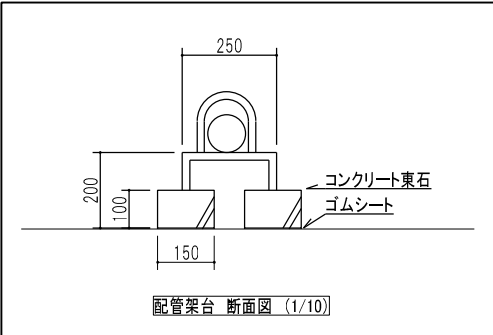
破線は既設部分

掘削箇所

仮設足場

注記

・仮設工事箇所は高置水槽の更新後撤去とする。



PH 1 階平面図

凡例

—

：実線は改修部分（更新）

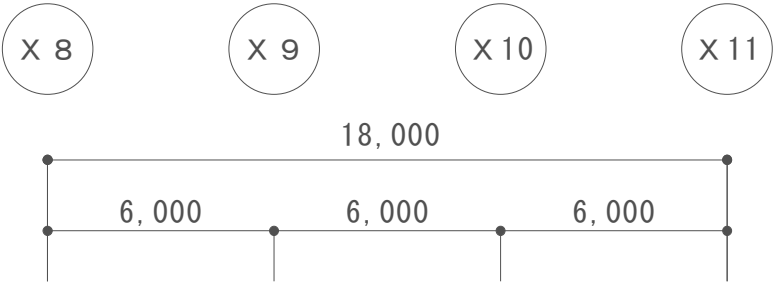
：破線は既設部分

☆

：配管接続箇所

注記

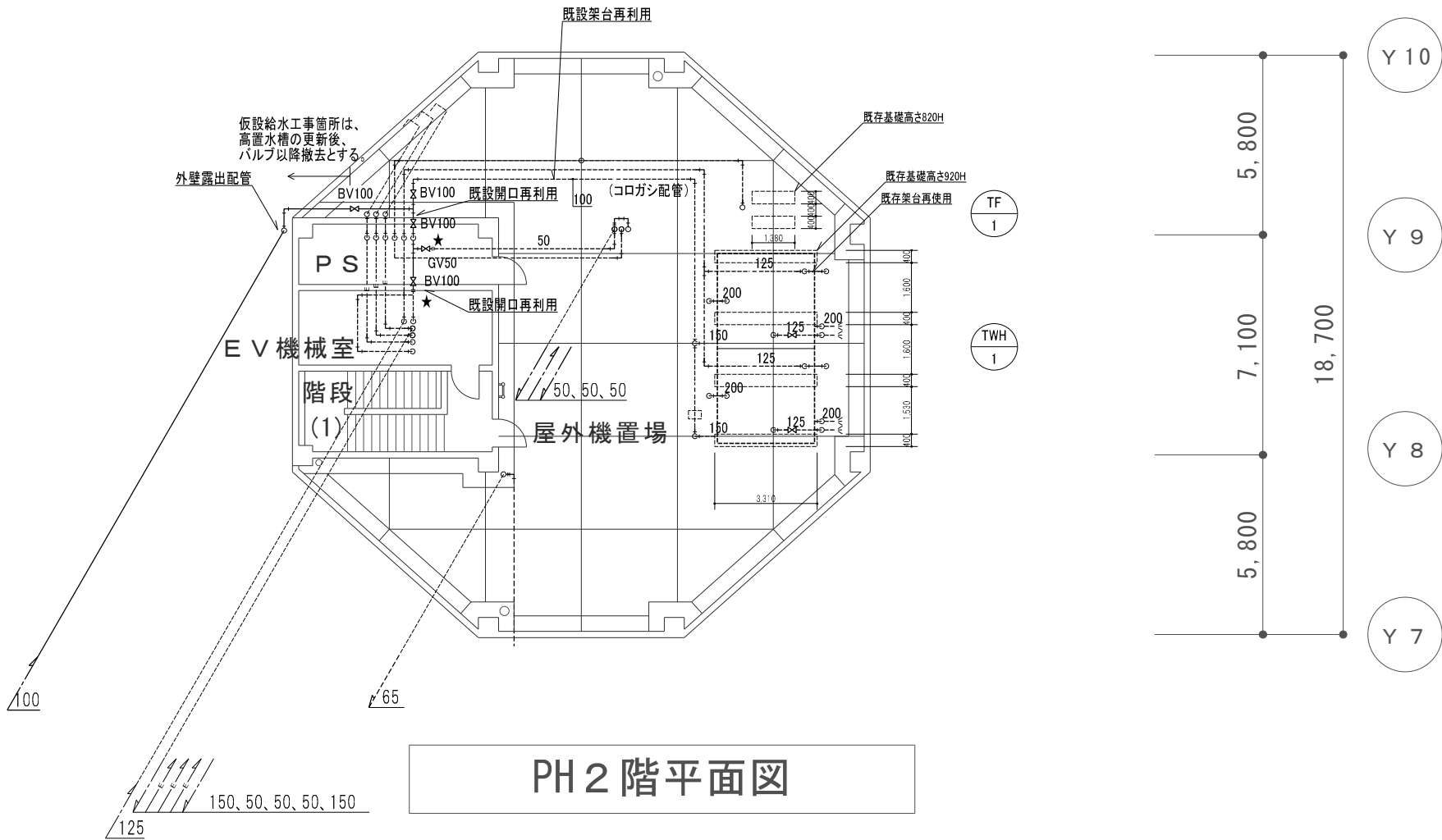
・仮設工事箇所は高置水槽の更新後撤去とする。



バルブリスト

TWH-1 高置水槽			
給水（1次側）	BV 10K	125A	2
	FJ ゴム	125A	2
給水（2次側）	BV 10K	150A	2
	FJ ゴム	150A	2
排水	BV 10K	125A	2
通気	防虫網（山型）	200A	2
オーバーフロー	防虫網（山型）	200A	2

○ ○



PH 2 階平面図

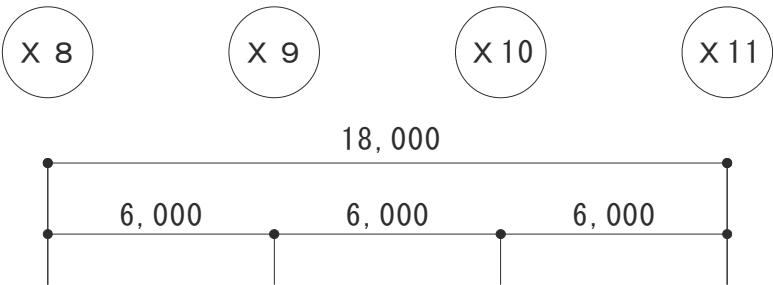
凡例

: 実線は改修部分（更新）

: 破線は既設部分

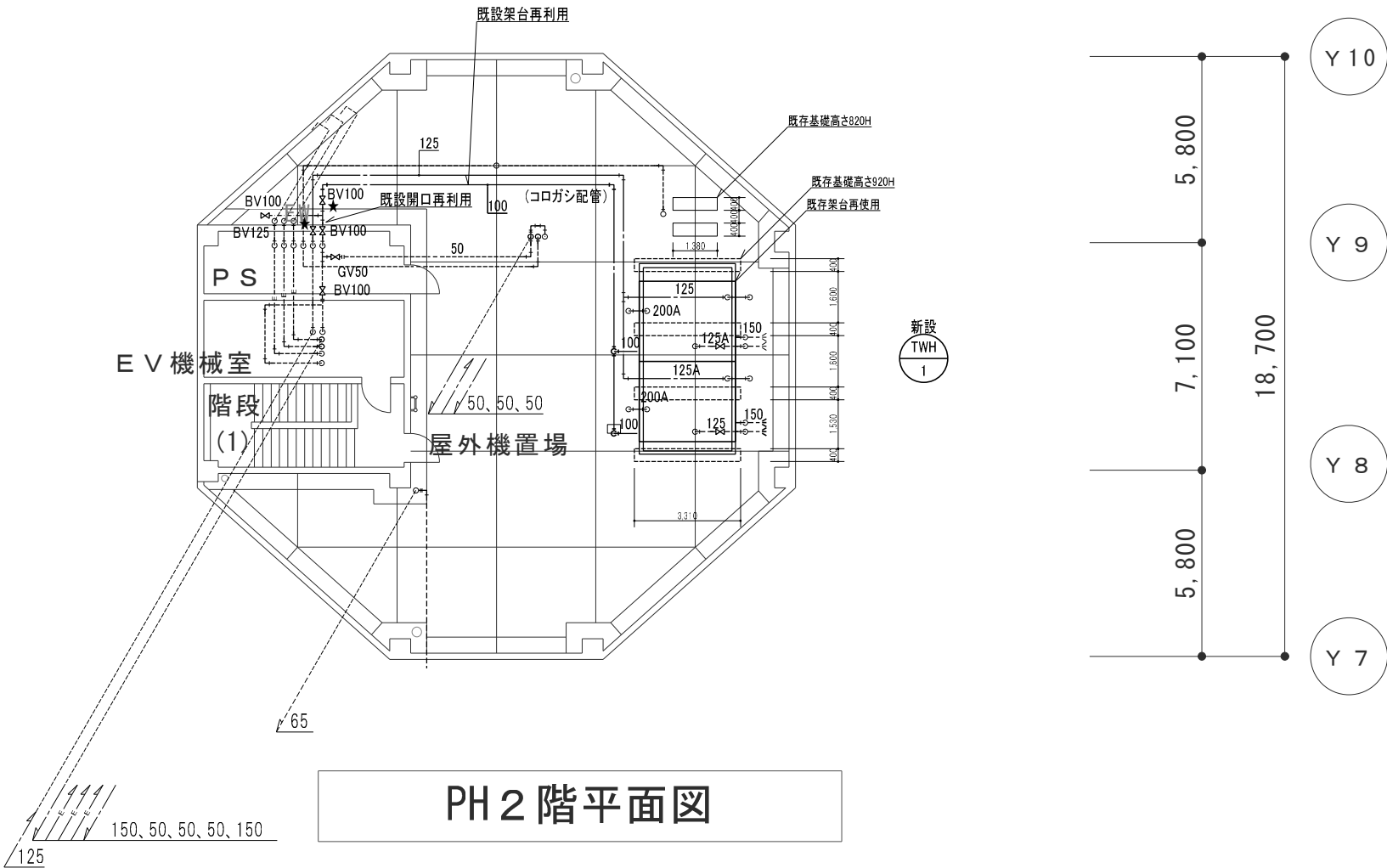
☆

: 配管接続箇所



バルブリスト

TWH-1 高置水槽			
給水（1次側）	BV 10K	125A	2
	FJ ゴム	125A	2
給水（2次側）	BV 10K	100A	2
	FJ ゴム	100A	2
	緊急遮断弁	200A	2
排水	BV 10K	125A	2
通気	防虫網（山型）	200A	2
オーバーフロー	防虫網（山型）	200A	2




衛生機器表

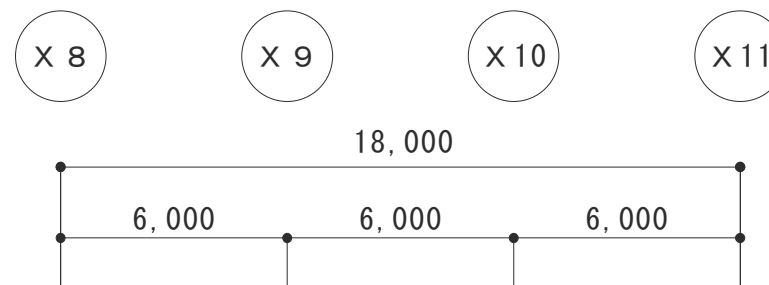
記 号	名 称	設 置 場 所	仕 様 ・ 能 力	電源	電力	台数	備 考
				φ-V	KW		
T W - 1	受 水 槽	屋外	鋼板製一体型水槽 (SS400) 単板 2/3G 呼称容量 72m ³ 2 (有効容量 56m ³ 2) 内外加熱硬化型エポキシライニング仕上 (外面 0.4' 内面 0.4'以上) 塩害仕様 呼称容量 72m ³ 2 (有効容量 57m ³ 2) (6 ^m +2 ^m +6 ^m) × 4 ^m × 3 ^m H (中央部ポンプ室 出入口扉 (鍵付)、通気ガ拉里共) 内外タラップ マンホール (鍵付) 防波板 通気口 (200 ^φ) 電極 4P×2組、3P×2組 SUS アンカーボルト			1	基礎 400 ^W × 14,600 ^L × 600 ^H 詳細図参照
T W H - 1	高 値 水 槽	PH屋外	鋼板製一体型水槽 (SS400) 単板 1/5G 呼称容量 45m ³ 2 (有効容量 35m ³ 2) 2 ^m × 6 ^m × 2.5 ^m H (中仕切板付) 塩害仕様 内外加熱硬化型エポキシライニング仕上 (外面 0.4' 内面 0.4'以上) 内外タラップ (SUS) マンホール (鍵付) 防波板 通気口 電極 3P×2組 ボルト ナット SUS製			1	基礎 400 ^W × 3,300 ^L × 600 ^H × 3箇所 (建築工事)
P W - 1	揚 水 ポ ン プ	屋外 (受水槽ポンプ室)	多段渦巻ポンプ 80 ^φ × 630L/min × 39 ^m 全閉外扇形モーター (4P) 自動交互&同時運転 防振ゴム	3-200	7.5	2	
P U - 1	給 水 ポ ン プ ユ ニ ャ ッ ト	PH機械室	吐出圧一定 減圧弁方式 ナイロンコーティング多段タービンポンプ 65 ^φ × 50 ^φ × 360L/min × 27 ^m 全閉外扇形モーター 自動交互&同時運転 防振架台 制御盤他付属品共	3-200	2.2×2	1	基礎 1,000 × 800 × 200 ^H (建築工事)
T F - 1	消 火 用 弁 水 タ ン ク	PH屋外	SUS製 800 × 800 × 1500 ^H (有効容量 800L) SUS304-30L 架台 H=1000/垂銘メッキドブ溝/内外タラップ マンホール 通気口 電極 3P共			1	基礎 1,000 × 1,000 × 150 ^H (建築工事)
T V W - 1	貯 湯 槽	1階機械室	ステンレス製 立形 SUS444 架台 H=300 1500 ^φ × 2700 ^H (3340 ^H) (有効容量 5000L) 板厚 6t 加熱能力 324,000 kcal/H 蒸気加熱コイル 600 ^{kg} /H (0.196MPa) SUS316 製コイル 詳細図参照			2	基礎 1,700 × 1,700 × 150 ^H (建築工事)
P H W - 1	給 湯 用 循 環 ポ ン プ	1階機械室	ステンレス製ラインポンプ 32 ^φ × 58L/min × 14 ^m 天吊防振架台	3-200	0.4	2	
D P - 1	湧 水 用 水 中 ポ ン プ	地下ビット	SUS製 50 ^φ × 100L/min × 10 ^m 自動交互&同時運転 フロートスイッチ ケーブル	3-200	0.75×2	3	
D P - 2	雨 水 用 水 中 ポ ン プ	地下ビット	SUS製 50 ^φ × 100L/min × 10 ^m 自動交互&同時運転 フロートスイッチ ケーブル	3-200	0.75×2	1	
L P G - 1	プロパンガス集合装置	プロパン庫	自動切替装置 50kgボンベ 6本×6本 転倒防止用 SUSチェーン共一式 ガスメーター貸与品取付			1	プロパン庫 建築工事
G T - 1	グ リ ー ス ト ラ ッ プ	1階厨房	ステンレス製 バイブ式 4槽 本体容量 250L 綿鋼板製蓋			2	
G T - 2	〃	1階軽食堂	〃 バイブ式 3槽 〃 75L 〃			1	
T D - 1	現 像 液 廃 液 槽	屋外	定着液用 ポリエチレン製丸形 容量 1m3 1000 ^φ × 1500 ^H 電極 2P 耐圧スラブ マンホール (鍵付) 共			1	
T D - 2	〃	〃	現像液用 ポリエチレン製丸形 容量 1m3 1000 ^φ × 1500 ^H 電極 2P 耐圧スラブ マンホール (鍵付) 共			1	
E H - 1	電 気 温 水 器	1階内視鏡室	壁掛形 貯湯量 12L 止水栓共	1-200	0.75	1	
E H - 2	〃	3・4階湯沸室	壁掛形 貯湯量 20L 止水栓共	1-200	1.5	4	
E H - 3	〃	1階救急処置室 3階産科	壁掛形 瞬間式	3-200	10	2	
R - 1	ろ 過 器	1階ビット内	カートリッジ式 ステンレス製 15m3/H			2	
Y - 1	薬 液 注 入 装 置	〃	自力注入式			1	
R P - 1	ろ 過 ポ ン プ	〃	ステンレス製水中ポンプ 300L/min × 11m	3-200	1.5	1	
R S - 1	送 水 ポ ン プ	〃	ステンレス製水中ポンプ 800L/min × 8.5m	3-200	3.7	1	

記 号	名 称	設 置 場 所	仕 様 ・ 能 力	電源	電力	台数	備 考
				φ-V	KW		
S P - 1	温 水 循 環 ポ ン プ	1階機械室	ステンレス製 自吸渦巻ポンプ 100 ^φ × 1400L/min × 12 ^m スプリング防振架台	3-200	5.5 (4P)	1	
S P - 2	〃	〃	ステンレス製 渦巻ポンプ 80 ^φ × 450L/min × 45 ^m スプリング防振架台	3-200	7.5 (4P)	1	

凡 例

記 号	名 称	材 料	規 格	備 考
————	給水管 (動圧)	水道用硬質塩化ビニルライニング鋼管	JWWA K 116	SGP-VA-K (一般配管用)
〃	〃 (〃)	〃	〃	SGP-VD-K (地中配管用)
———	加圧給水管	〃	〃	SGP-VA-K
—————	揚水管	〃	〃	〃
——I——	給湯管 (送り)	鋼管	J I S H 3300	Mタイプ
——II——	〃 (返り)	〃	〃	〃
——E——	膨張管	〃	〃	〃
——D——	污水管	排水用硬質塩化ビニルライニング鋼管	WSP 042	D-VA
————	雑排水管	配管用炭素鋼々管	J I S G 3452	SGP白管
———	通気管	〃	〃	〃
—————	汚水・雑排水管	排水用鉛管	HASS 203	LP
——G——	ガス管	配管用炭素鋼々管	J I S G 3452	SGP白管 (一般配管用)
〃	〃	外面ポリエチレン被覆鋼管 1層型	J I S G 3469	PLS (ビット内配管用)
〃	〃	〃 2層型	〃	PLP (地中配管用)
————	排水管	硬質塩化ビニル管 (雙口付)	J I S K 6741	VU (屋外地中樹間)
——S ^(2K) ——	蒸気管 (送り)	配管用炭素鋼々管	J I S G 3452	SGP黒管
——SR ^(2K) ——	〃 (返り)	〃	〃	〃
——S ^(4K) ——	〃 (送り)	配管用炭素鋼々管	J I S G 3452	SGP黒管
——SR ^(4K) ——	〃 (返り)	〃	〃	〃
——HD——	高温排水管	配管用炭素鋼々管	J I S G 3452	SGP白管
——TD——	人工透析排水管	排水用硬質塩化ビニルライニング鋼管	WSP 042	D-VA
——PD——	現像液排水管	水道用ポリエチレン管	J I S K 6761	
——CD——	定着液排水管	〃	〃	
——/——	検査薬液排水管	硬質塩化ビニル管	J I S K 6741	VP (ビット内・地中配管用)
——//——	〃	排水用硬質塩化ビニルライニング鋼管	WSP 042	D-VA (1階～4階)
——A——	エアー配管	配管用炭素鋼々管	J I S G 3452	SGP白管

注記
(1)表中は、撤去対象機器を示す。



TWH-1 高置水槽			
給水（1次側）	BV 10K	125A	2
	FJ ゴム	125A	2
給水（2次側）	BV 10K	150A	2
	FJ ゴム	150A	2
排水	BV 10K	125A	2
通気	防虫網（山型）	200A	2
オーバーフロー	防虫網（山型）	200A	2

T F-1 消火用充水槽			
補給水（入口）	GV 10K	25A	1
	FJ (SUS)	25A	1
補給水（出口）	GV 10K	25A	2
	FJ (SUS)	25A	2
排水	GV 10K	25A	1



凡例

赤色実線は改修部分（更新）

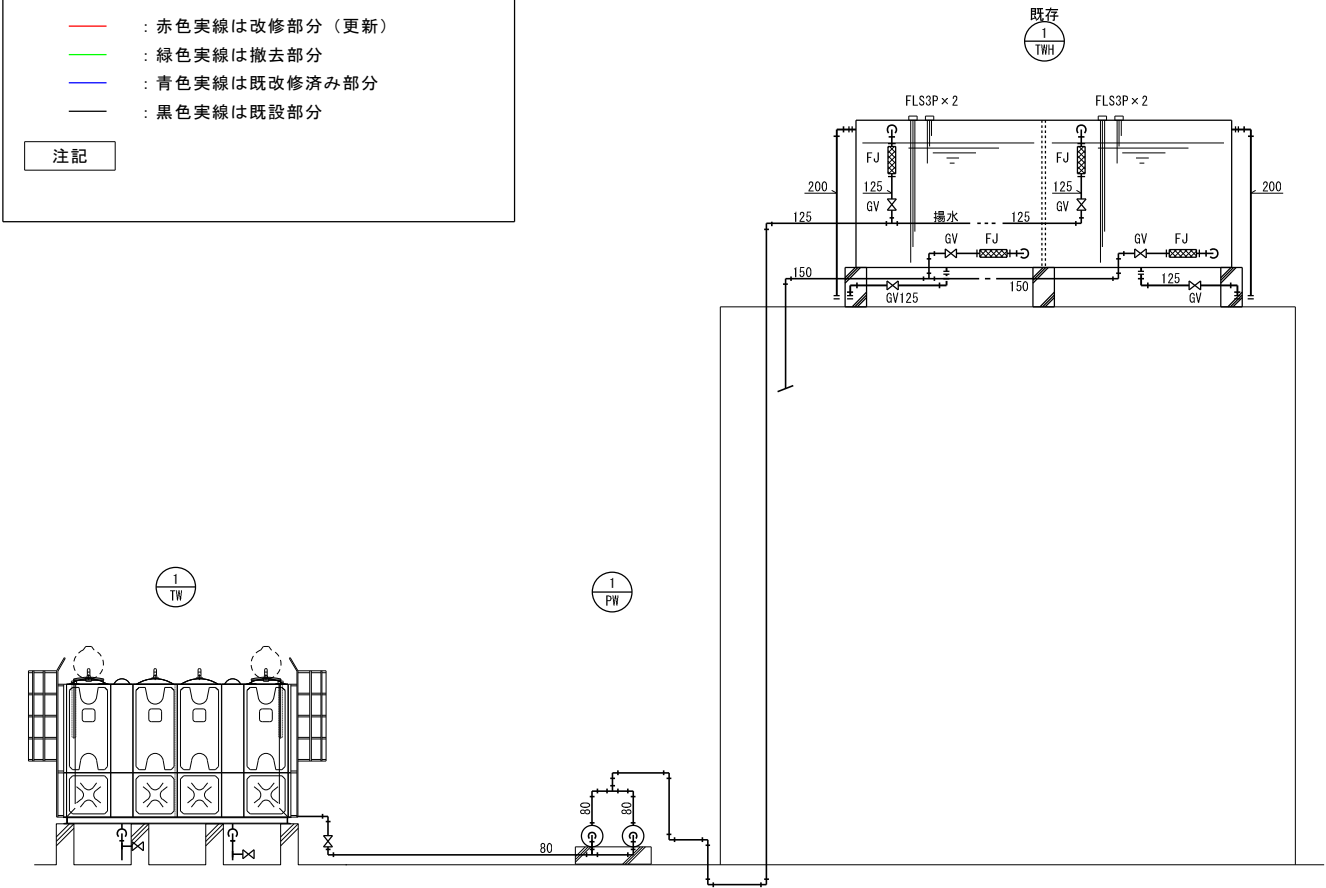
緑色実線は撤去部分

青色実線は既改修済み部分

黒色実線は既設部分

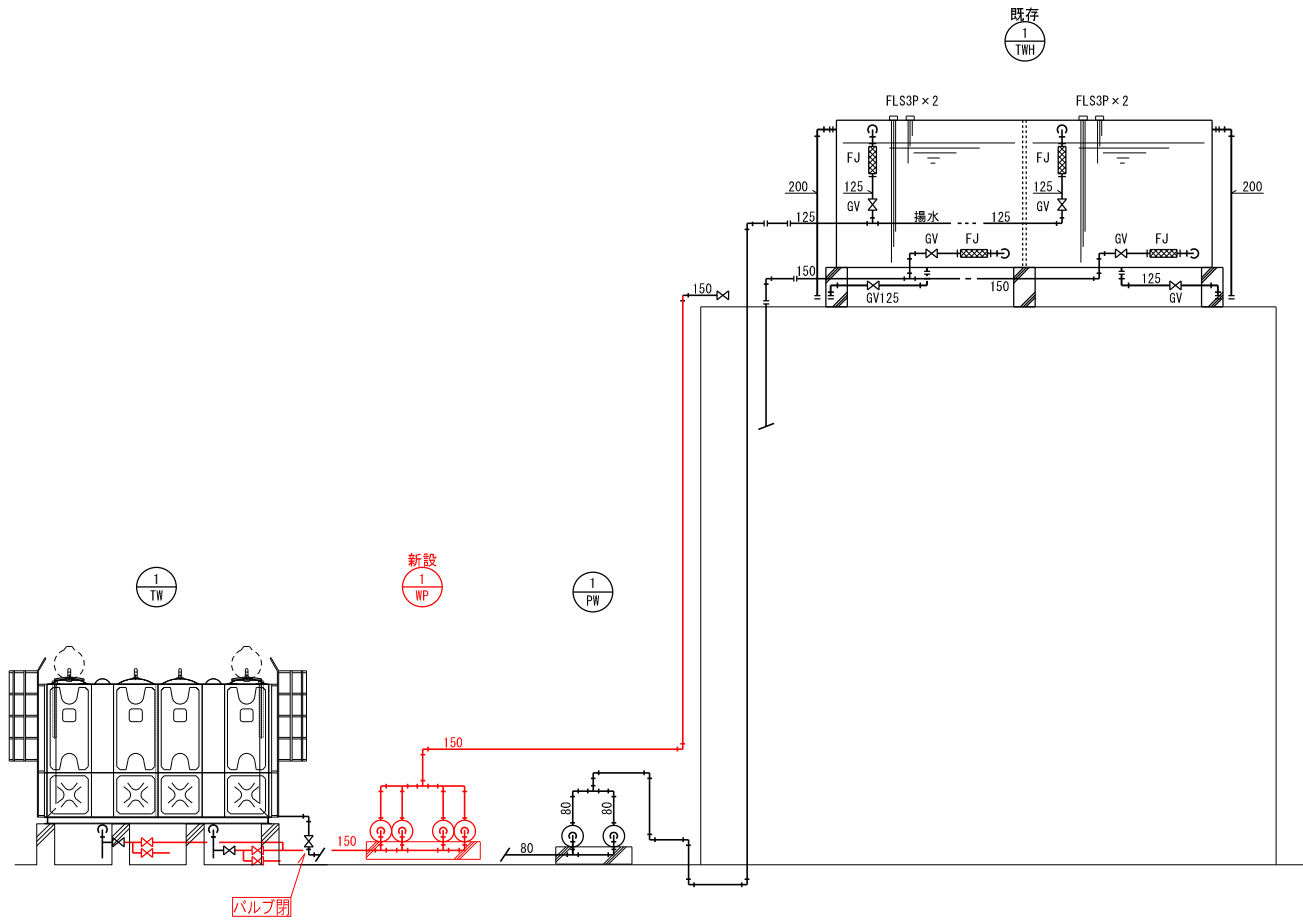
注記

STEP1 現況



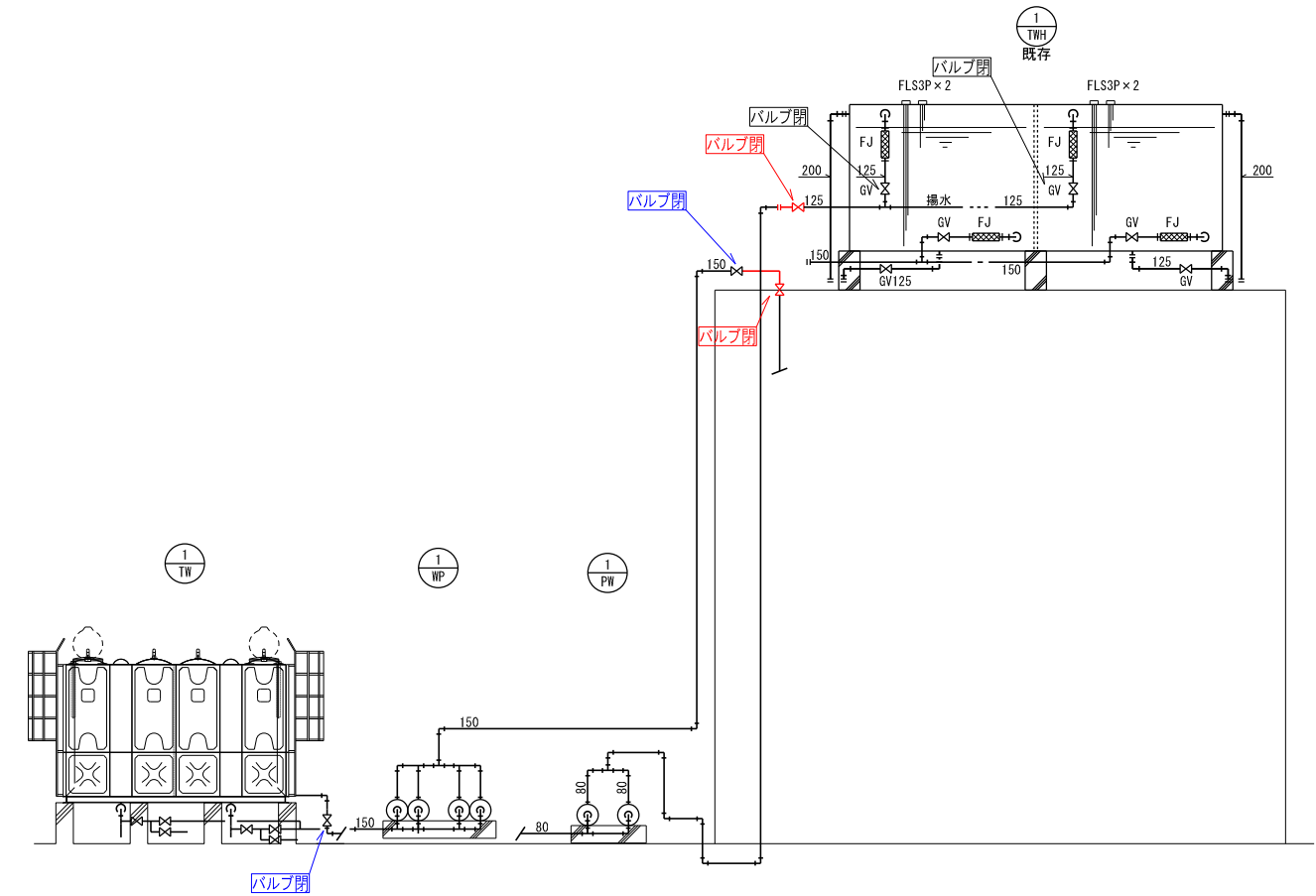
STEP2 仮設加圧給水ポンプを新設、高架水槽以降の給水管を一部撤去

（仮設工事）



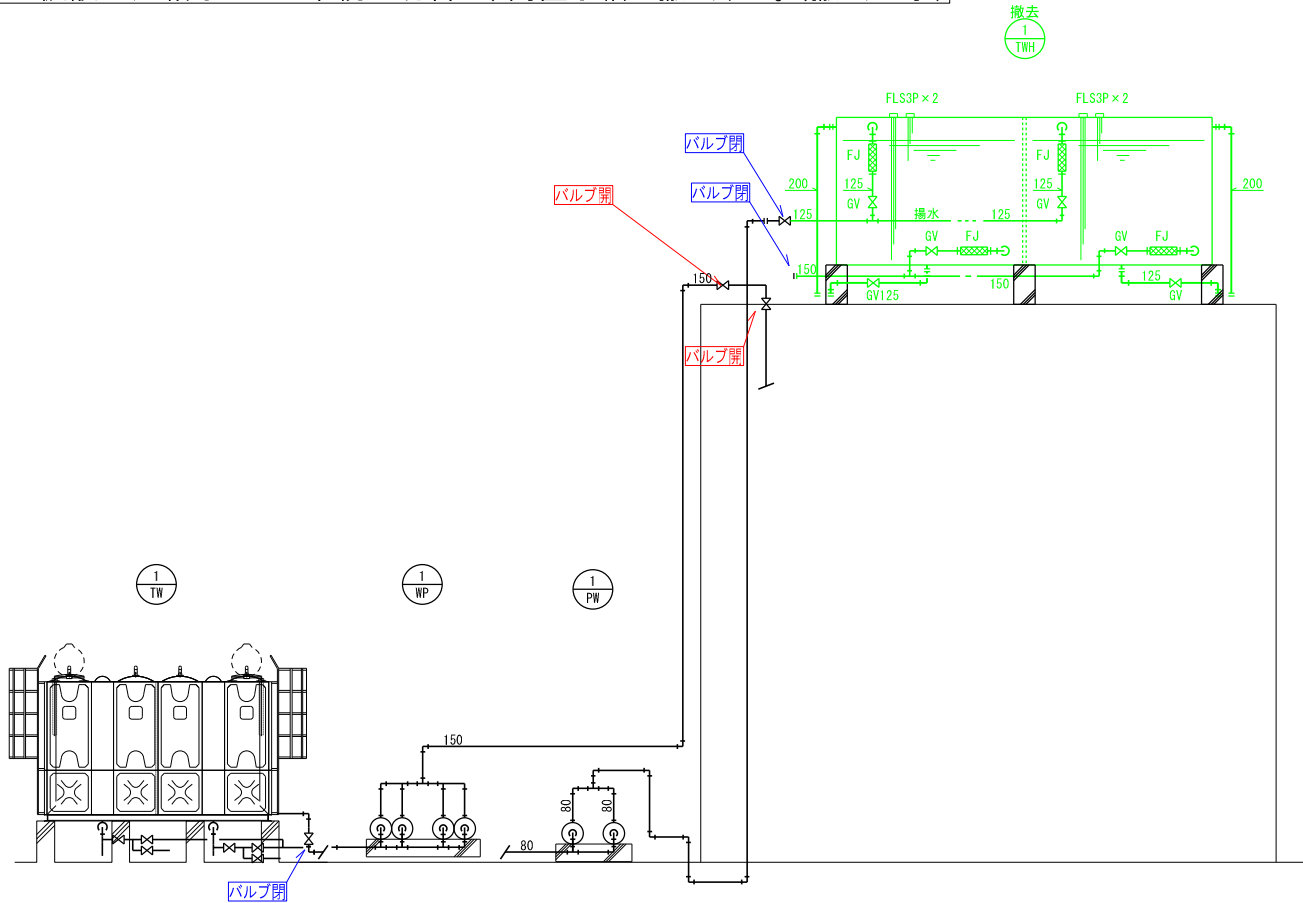
STEP3 仮設加圧給水ポンプからの給水配管と高置水槽以降の給水配管を接続する。

（仮設工事）



STEP4 仮設加圧給水ポンプ系統へ切替え、高置水槽を撤去する。

（撤去工事）



衛生器具表（取外再取付）

器具名称		参考品番・付属品	合計	1階										2階				3階										4階																	
				小児科 WC	産婦人科 WC	内視鏡室 WC	WC(男) 1	WC(女) 1	CWC(1)	WC(男) 2	WC(女) 2	WC(男) 3	WC(女) 3	CWC(3)	1階計	WC(女) 2	WC(男) 2	病室	2階計	WC(男) 1	WC(女) 1	浴室(1)	洗浄室(3)	CWC(1)	WC(男) 2	WC(女) 2	浴室(2)	洗浄室(4)	CWC(2)	病室	3階計	WC(男) 1	WC(女) 1	浴室(1)	洗浄室(3)	CWC(1)	WC(男) 2	WC(女) 2	浴室(2)	洗浄室(4)	CWC(2)	病室	4階計		
設備工事																																													
洋風便器	取外再取付	自動フラッシュ弁	37			1			1	1	2	1	3	1	10	2	1		3					1					1	10	12						1					1	10	12	
一体形小便器	取外再取付		24			3			3			3		1	10		2		2	3									3							3								6	
手洗器	取外再取付		13						1						1							2	1					2	1					2	1					2	1			6	
掃除流し	取外再取付		8					1		1			1		3	1			1			1					1			2				1					1				2		
紙巻器	取外再取付	1連	30				2	3	1	1	1	1	1		10					1	2			1	1	2			1	4	12	1	2			1	1	2			1		8		
鏡	取外再取付	450×610	6						1					1	2								1					1		2					1						1		2		
手すり	取外再取付		93	1	1	2	3	3	1	3	2	2	1	3	22			4	4	2	2	5		1	2	2	5		1	15	35	2	2	5		1	2	2	5		1	12	32		

ファンコイルユニット パネル（取外再取付）

記号	ファンコイルユニット 形式	能力		風量 (H急) m/min	台数				
		冷房 Kcal/h	暖房 Kcal/h		設置階				
					1階	2階	3階	4階	計
FCU-24K	4方向吹出力セット形	4,200	7,370	1,200				2	2
FCU-22K	2方向吹出力セット形	1,640	2,500	372		1			1
FCU-42K	2方向吹出力セット形	1,640	2,500	690	4	3			7
FCU-62K	2方向吹出力セット形	4,370	6,520	1,002			9	6	15
FCU-82K	2方向吹出力セット形	6,120	9,210	1,290	1		2	4	7
FCU-22WK	2方向吹出力セット形	1,150	1,710	372			1	1	2
FCU-32WK	2方向吹出力セット形	1,550	2,440	522			1		1
FCU-42WK	2方向吹出力セット形	2,190	3,230	690	2				2
FCU-62WK	2方向吹出力セット形	3,170	4,640	1,002	1			2	3
				計	8	4	13	15	40
	リモコンスイッチ	-	-	-	4	22	39	32	97

スプリンクラーヘッド(撤去)

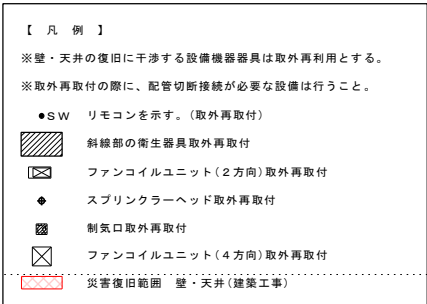
名称	サイズ	1階	2階	3階	4階	計
スプリンクラーヘッド(標準型)	25	7	6	2	5	20

スプリンクラーヘッド(新設)

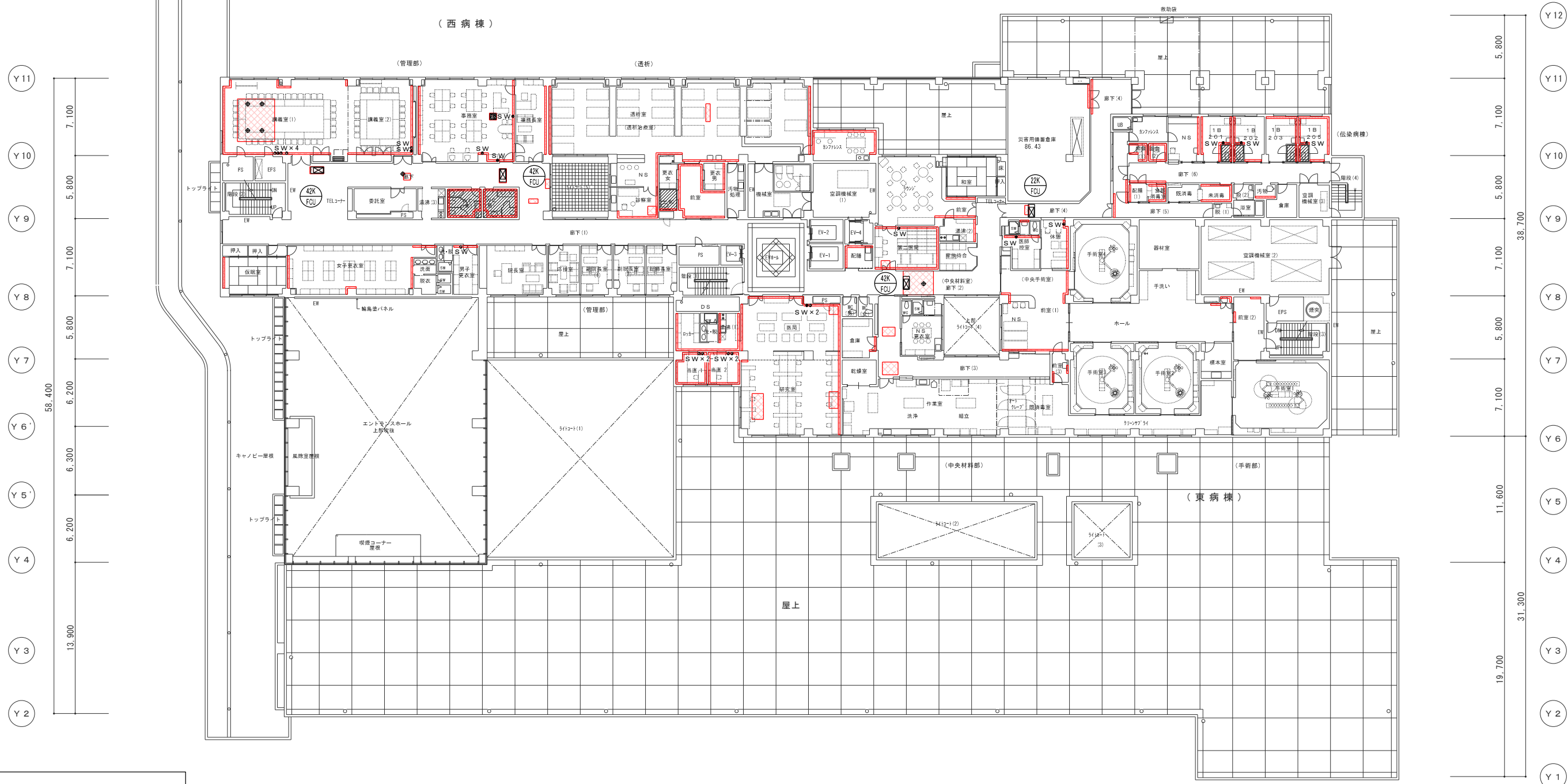
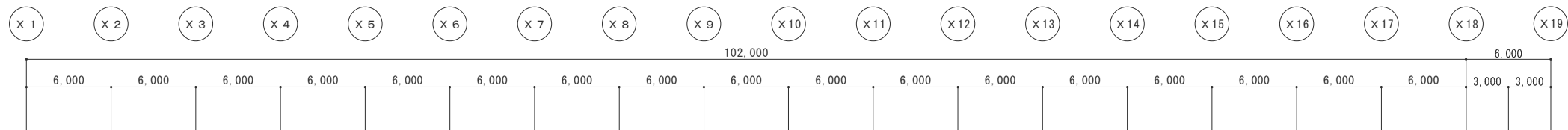
名称	サイズ	1階	2階	3階	4階	計
スプリンクラーヘッド(標準型)	25	7	6	2	5	20

制気口(取外再取付)

階	設置室	種類	寸法	風量(m3/h)		個数
				給気	排気	
1	スタッフカンファレンス	VHS	200×200	250		1
1	検収室	VHS	200×200	200		1
1	生理検査室	HS	300×300		440	1
1	EVホール	CL-3	2000L	720		1
2	事務室	HS	250×250		295	1
3	EVホール	CL-3	2000L	720		1
3	病室	VH	720×110	720		12
4	EVホール	CL-3	2000L	720		1
4	病室	VH	720×110	720		11
4	カンファレンス(1)	HS	200×200		150	1



(リハビリテーション科)



- 【 凡 例 】
- ※壁・天井の復旧に干渉する設備機器器具は取外再利用とする。
- ※取外再取付の際に、配管切断接続が必要な設備は行うこと。
- SW リモコンを示す。(取外再取付)
 - 斜線部の衛生器具取外再取付
 - ファンコイルユニット(2方向)取外再取付
 - ◆ スプリンクラーヘッド取外再取付
 - 制気口取外再取付
 - ⊠ ファンコイルユニット(4方向)取外再取付
 - 災害復旧範囲 壁・天井(建築工事)

2階平面図 1/400

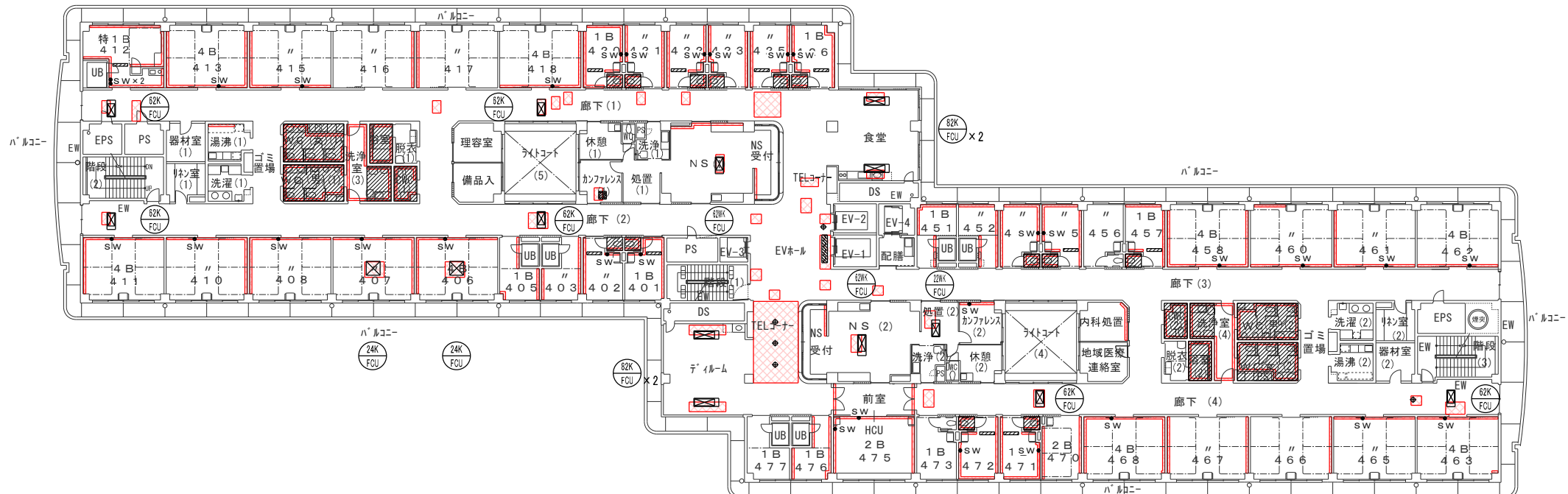


- | | | | | | | | | | | | | |
|-------------------|-------------|-------------------|----------|---|----------------------|----|---|---|-----------------------------|----|----------------------|---|
| JOB NO.
124358 | 2026 年 03 月 | 市立輪島病院災害復旧工事（その3） | 一級建築士事務所 |  株式会社 浦建築研究所 | 一級建築士 第 276761 号 浦 淳 | 設計 | ・ | ・ | 標題
（災害復旧）
機械設備 3 階平面図 | 縮尺 | A1:1/200
A3:1/400 | <input checked="" type="checkbox"/> 巻
M - 25 |
|-------------------|-------------|-------------------|----------|---|----------------------|----|---|---|-----------------------------|----|----------------------|---|

X 1	X 2	X 3	X 4	X 5	X 6	X 7	X 8	X 9	X 10	X 11	X 12	X 13	X 14	X 15	X 16	X 17	X 18
102,000																	
6,000	6,000	6,000	6,000	6,000	6,000	6,000.1	6,000	6,000	6,000	6,000	6,000	6,000	6,000	6,000	6,000	6,000	6,000

急性期
(西病棟)

Y 11	7,100
Y 10	5,800
Y 9	7,100
Y 8	5,800
Y 7	7,100
Y 6	7,100
20,000	



Y 11	7,100
Y 10	5,800
Y 9	7,100
Y 8	5,800
Y 7	7,100
Y 6	7,100
32,900	

(東病棟)
地域包括

4階平面図 1/400

【 凡 例 】

※壁・天井の復旧に干渉する設備機器器具は取外再利用とする。

※取外再取付の際に、配管切断接続が必要な設備は行うこと。

●SW

リモコンを示す。(取外再取付)

斜線部

斜線部の衛生器具取外再取付

ファンコイルユニット(2方向)

ファンコイルユニット(2方向)取外再取付

◆

スプリンクラーヘッド取外再取付

■

制気口取外再取付

⊠

ファンコイルユニット(4方向)取外再取付

⊠

災害復旧範囲 壁・天井(建築工事)

衛生器具表（取外再取付）

器具名称	参考品番・付属品		合計	3階					4階					
				脱衣 (1)	洗濯 (2)	NS (1) WC	病室	3階 計	脱衣 (1)	洗濯 (2)	NS (1) WC	病室	NS (2) WC	4階 計
設備工事														
洋風便器	取外再取付	自動フラッシュ弁	10			1	3	4				5	1	6
手洗器	取外再取付		7	1	1	1		3	1	1	1		1	4
手すり	取外再取付		6				2	2				4		4

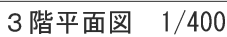
制気口（取外再取付）




階	設置室	種類	寸法	風量 (m3/h)		個数
				給気	排気	
3	病室	VH	720×110	720		3
4	病室	VH	720×110	720		6

リモコンスイッチ（取外再取付）

名称	3階	4階	計
リモコンスイッチ	11	22	33

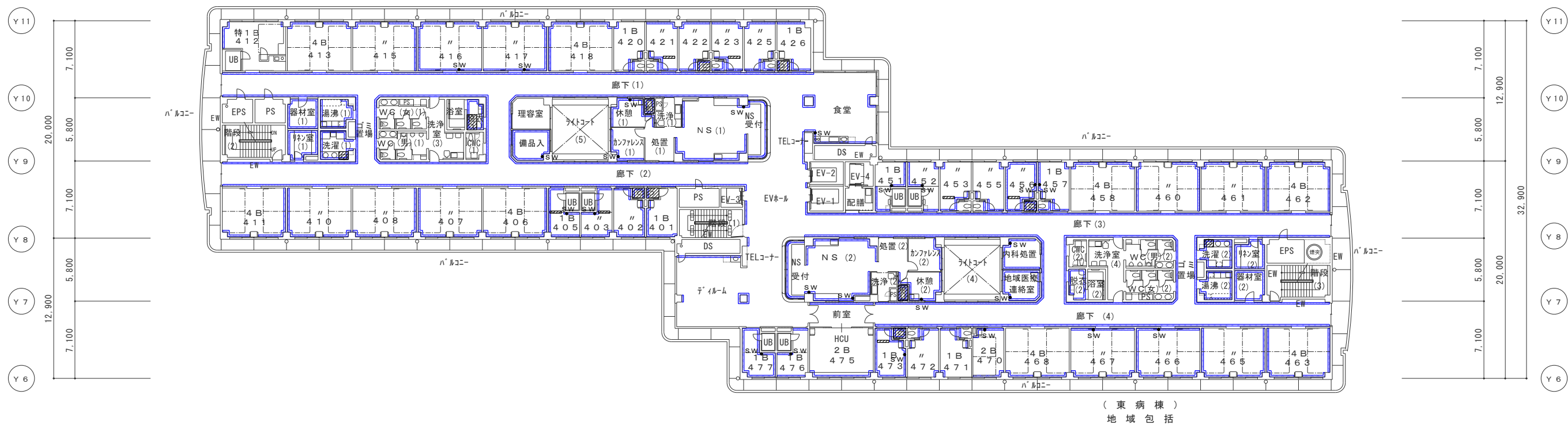




●SW リモコンを示す。(取外再取付)
 斜線部の衛生器具 (取外再取付)
 制気口 (取外再取付)
 院内改修範囲 壁(建築工事)

X 1	X 2	X 3	X 4	X 5	X 6	X 7	X 8	X 9	X 10	X 11	X 12	X 13	X 14	X 15	X 16	X 17	X 18
102,000																	
6,000	6,000	6,000	6,000	6,000	6,000	6,000.1	6,000	6,000	6,000	6,000	6,000	6,000	6,000	6,000	6,000	6,000	6,000

急性期
(西病棟)



【 凡 例 】

※壁の改修に干渉する設備機器器具は取外再利用とする。

※取外再取付の際に、配管切断接続が必要な設備は行うこと。

●

リモコンを示す。(取外再取付)

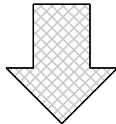
斜線部の衛生器具 (取外再取付)

制気口 (取外再取付)

院内改修範囲 壁(建築工事)

衛生器具表（撤去）

器具名称	参考品番・付属品		湯水 （ ● ○ ）	電源		消費電力	合計	3 階					4 階				
								W C （女） 1	W C （男） 1	W C （女） 2	W C （男） 2	3 階 計	W C （女） 1	W C （男） 1	W C （女） 2	W C （男） 2	4 階 計
				φ	V	W											
設備工事																	
和風大便器	C-752BF	CFB-510UV(押ボタン式フラッシュ弁)、CF-103BB、CF-14AFW	○				8	1	1	1	1	4	1	1	1	1	4
紙巻器		1連					8	1	1	1	1	4	1	1	1	1	4
L型手すり							8	1	1	1	1	4	1	1	1	1	4



和洋リモデル工法（製造者講習会受講済の者が施工すること。）

1. 和風大便器の前立て部をカットする。
2. 和風大便器のリム面をカットする。
3. 和風大便器のボウル面をカットし、排水管の接続部を露出させる。
4. 新設便器に合わせ、排水アジャスターを設置し、既設排水管とシール材にて接続する。
5. 溶接金属を敷設し、モルタル（超速硬タイプ）を打設する。
6. 床タイルを張る。
- ↓ 半日間、養生する。
7. 新設便器、便座を取り付ける。
8. 洗浄テスト、動作試験後、完了。

衛生器具表（新設）

器具名称	参考品番・付属品		湯水 （ ● ○ ）	電源		消費電力	合計	3 階					4 階				
								W C （女） 1	W C （男） 1	W C （女） 2	W C （男） 2	3 階 計	W C （女） 1	W C （男） 1	W C （女） 2	W C （男） 2	4 階 計
				φ	V	W											
設備工事																	
洋風便器	CFS494MCRNA	フラッシュバルブ式、TCF5831ADR(暖房機能付温水洗浄便座)、TES47MR、TH343R(接続金具)	○	1	100	1261	8	1	1	1	1	4	1	1	1	1	4
紙巻器	YH702						8	1	1	1	1	4	1	1	1	1	4
L型手すり	T112CL10	L=700mm					8	1	1	1	1	4	1	1	1	1	4

※ 水栓のこまは節水こまとする。

